

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	音韻・表記の基礎知識／国語学講読C						
担当教員	尾山 慎						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	我々は普段の言語活動において、読み書きと話し聞きを繰り返している。つまり、ことばを音と文字で操っているのである。それぞれがどういう働きをもっているのか、そしてまた両者がどのような関係をもっているのかを学ぶ。主に授業の前半に表記論、後半に音韻論を解説するが、互いに連関を有していることはもちろんである。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1、文字と字はどう違うか 2、漢字の部首・字形 3、文字の分節機能 4、同字異訓—「生」に訓はいくつあるか 5、異字同訓—「嗟う」と「笑う」の違いはなにか 6、補助記号の意味 7、国語施策と文字 8、これまでのおさらい【復習小テスト】 9、音声と音韻 10、アクセント 11、清濁 12、漢字音 13、音韻史通説 14、【総まとめ】音韻と表記の関係 15、テストと解説
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	講義形式をとるが、受講者に意見をもとめる場合があるので、その際は積極的発言を期待する。基礎知識を得ることが目的であるので、まったくの初学であっても一通り学べるようカリキュラムを組んで、一回完結型の方法をもって進める。必ず毎回資料が配付されるが、重要箇所は空欄になっているので、解説や板書を参照しつつ適宜記入することが求められる。
評価方法 Evaluation	授業参加態度（発言内容など）30% テスト（小テスト20%+期末テスト50%）70% 出席点（減点方式とする。全出席して、±0） 以上をもって総合的に判断する。
履修上の注意 Requirements and policy	今後、日本語学、日本文学を学ぶ上で必須の基礎知識であることを強調したい。学年が上がるごとに、基本的なこと学ぶ時間は少なくなっていく。これから学問に対峙するための礎となる講義であるので、欠席することなく、真摯に受講してもらいたい。
教科書 Textbook (s)	毎回レジュメプリントを配布する。
参考書 Reference (s)	授業中に適宜紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	書きことばの諸相／国語学講読E						
担当教員	石原 のり子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>書きことば、と聞くと、「文章を書くのは苦手!」という気持ちを持つ人も多いかもしれません。この授業では、そんな意識を少しでもなくすことを目標とします。</p> <p>主に、日記、平安時代の恋文・近現代の作家のラブライター、文学作品（サブカルチャーを含む）にあらわれる役割語（話し手の特定の人物像（年齢・性別・職業・階層・時代・容貌・性格など）を想起させる特定の言葉遣い）を取り上げます。</p> <p>また、文章を書くにあたって必要となる漢字や四字熟語などの知識の習得のために、漢字検定3級程度の小テストも行います。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第一回：ガイドダンス</p> <p>第二回：かな文字の日記 『土左日記』</p> <p>第三回：玉の輿結婚の内実 『蜻蛉日記』</p> <p>第四回：男性貴族の日記 『小右記』『御堂閨白記』『権記』</p> <p>第五回：記録と心情の狭間 『紫式部日記』</p> <p>第六回：文学少女の回想と創作 『更級日記』</p> <p>第七回：平安時代のラブライター① 『和泉式部日記』</p> <p>第八回：平安時代のラブライター② 『源氏物語』</p> <p>第九回：文豪のラブライター① 森鷗外・夏目漱石</p> <p>第十回：文豪のラブライター② 芥川龍之介・谷崎潤一郎</p> <p>第十一回：文豪のラブライター③ 太宰治</p> <p>第十二回：役割語① お嬢様ことば</p> <p>第十三回：役割語② 博士語</p> <p>第十四回：役割語③ 軍人ことば</p> <p>第十五回：役割語④ 上司語</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式で行う。

評価方法 Evaluation	平常点50%、レポート50%
履修上の注意 Requirements and policy	小テスト・感想カードにより出席状況を把握するとともに平常点の評価も行う。 詳しくは初回の授業で説明する。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	漢文を読むA						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	漢文の基礎知識の確認と取得 漢文は中国文化を日本に受容することに腐心した先人の工夫です。中国語を日本語化して読むためのものなので
授業計画 Syllabus	第1回 ガイダンス 第2回 漢文訓読とは1 第3回 漢文訓読とは2 第4回 漢文訓読の基礎1 第5回 漢文訓読の基礎2 第6回 漢文訓読の基礎3 第7回 漢文訓読の基礎4 第8回 漢文訓読の基礎5 第9回 漢文訓読の応用1 第10回 漢文訓読の応用2 第11回 漢文訓読の応用3 第12回 漢文訓読の応用4 第13回 一応のまとめと筆記試験 第14回 筆記試験に関する質疑応答 第15回 総まとめ
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%と筆記試験50%
履修上の注意 Requirements and policy	積極的な授業参加が必要
教科書 Textbook(s)	漢文学び方の基礎 (改訂版) 近藤春雄著 武蔵野書院刊 ISBN : 9784838606153
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	漢文を読むB						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	漢文を通じて中国文化を受容する 漢文は中国文化を日本に受容することに腐心した先人の工夫で、中国語を日本語化して読むためのものです。テキストに即して漢文作品を読み込みます。						
授業計画 Syllabus	第1回 ガイダンス 第2回 漢文作品の数々 第3回 第1の作品について 第4回 第1の作品の読解1 第5回 第1の作品の読解2 第6回 第1の作品と日本文学 第7回 第2の作品について 第8回 第2の作品の読解1 第9回 第2の作品の読解2 第10回 第2の作品と日本文学 第11回 第3の作品 第12回 第4の作品 第13回 一応のまとめと筆記試験 第14回 筆記試験に関する質疑応答 第15回 総まとめ						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type	演習形式						
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%と筆記試験50%						
履修上の注意 Requirements and policy	積極的な授業参加が必要						
教科書 Textbook(s)	大学漢文テキスト 伝奇小説 漢文資料編集会議 編 大修館書店 ISBN(10/13桁):4-469-33211-9/978-4-469-33211-7						
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する						
備考 Remarks							

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	外国語会話IIA (中国語)						
担当教員	相場 美紀子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2~3	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>1. この授業では、中国語の運用実践を多く取り入れてコミュニケーション可能な語学力を育成することを目的とする。</p> <p>2. 中華料理のメニューの読み方、オーダーの仕方、麻婆豆腐や水餃子の作り方などを中国語理解の上で学習し、実践の場で役立てることを目指す。</p> <p>3. ビデオなどの映像補助で中国文化に対する知識と理解を深め、ロールプレイなどの作業を取り入れて五感で中国語を習得できるよう導く。</p> <p>4. 中国語で歌を最低1曲は習得し、中国人とのコミュニケーション手段として中華カラオケを活用できるようにする。</p>
授業計画 Syllabus	<p>授業計画</p> <p>第一回 中国(語)あれこれ イン트로</p> <p>第二回 第一課 中国アラカルト (中国と中国語、中華料理と中国語、漢字の種類)</p> <p>第三回 第二課 発音のおさらい (声調、音節構造、母音、子音、有気音・無気音、そり舌音、鼻音)</p> <p>第四回 基礎のおさらい</p> <p>第五回 第三課 こんにちは! (声調変化、挨拶の仕方、名前の尋ね方・答え方、へんとつくり)</p> <p>第六回 第四課 何をお飲みになりますか? (動詞述語文、形容詞述語文、疑問詞、中国茶の種類)</p> <p>第七回 第五課 これは何ですか? (指示代詞、連体修飾の“的”、調理器具、疑問文あれこれ)</p> <p>第八回 小テスト、中国語の歌紹介</p> <p>第九回 第六課 いくらですか? (値段の聞き方・値切り方、数の聞き方、量詞、文末の語気助詞)</p> <p>第十回 第七課 トマトはどこにありますか? (存在・所有、場所の示し方、並列・列挙、処置式)</p> <p>第十一回 第八課 何人家族ですか? (親族呼称、歳の尋ね方、比較の仕方、二つの“了”、できる)</p> <p>第十二回 第九課 誕生日は何月何日ですか? (日にちの聞き方、時間・曜日の表し方、選択疑問文)</p> <p>第十三回 自己紹介 会話練習</p> <p>第十四回 総まとめ・前期テスト</p> <p>第十五回 テスト講評、見直し</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	日常点、出席率、小テストなどを総合して判断する
履修上の注意 Requirements and policy	授業に真摯な態度で臨むこと
教科書 Textbook(s)	古川典代/福富奈津子 著 『料理で学ぶオイシイ中国語』 (朝日出版社)
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	外国語会話IIB (中国語)						
担当教員	相場 美紀子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2~3	単位数	1.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>1. この授業では、中国語の運用実践を多く取り入れてコミュニケーション可能な語学力を育成することを目的とする。</p> <p>2. 中華料理のメニューの読み方、オーダーの仕方、麻婆豆腐や水餃子の作り方などを中国語理解の上で学習し、実践の場で役立てることを目指す。</p> <p>3. ビデオなどの映像補助で中国文化に対する知識と理解を深め、ロールプレイなどの作業を取り入れて五感で中国語を習得できるよう導く。</p> <p>4. 中国語で歌を最低1曲は習得し、中国人とのコミュニケーション手段として中華カラオケを活用できるようにする。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第一回 前期おさらい</p> <p>第二回 第十課 今、何をしているの？ (動作・状態の進行継続、動詞の重ね型、使役、食材)</p> <p>第三回 第十一課 ゆであがった、熱いうちにどうぞ！ (結果補語、積極性を表す“来”、前置詞“給”、味の評価の仕方、火加減と油の温度)</p> <p>第四回 第十二課 すみません、ロイヤルホテルにはどういったらいいですか？ (方法・手段を尋ねる、時間の量を尋ねる、～しながら…する、新年のメニュー)</p> <p>第五回 中国語でロールプレイ</p> <p>第六回 第十三課 電話で宴会を予約する (“一”の読み方、電話のしかた、予約の取り消し方、仮定)</p> <p>第七回 第十四課 四川飯店にて (方向補語、複合方向補語、セットメニューの例)</p> <p>第八回 第十五課 お料理がきましたよ (動作の順番、マルチな動詞、何・どのように、行事と食習慣)</p> <p>第九回 小テスト、おさらい</p> <p>第十回 中国の歌、映画、ドラマの紹介</p> <p>第十一回 第十六課 麻婆豆腐 (レシピの中国語)</p> <p>第十二回 第十七課 水餃子 (レシピの中国語)</p> <p>第十三回 総まとめ、質疑応答</p> <p>第十四回 見直し、後期テスト</p> <p>第十五回 テスト講評</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	日常点・出席点：30% 小テスト・宿題：20% 定期テスト：50%						
履修上の注意 Requirements and policy	授業に真摯な態度で臨むこと						
教科書 Textbook(s)	古川典代／福富奈津子 著 『料理で学ぶオイシイ中国語』 (朝日出版社)						
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。						

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	外国語会話IIIA (朝鮮語)						
担当教員	金 美善						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2~3	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	この授業では、韓国への旅行に必要な程度の韓国語能力を身につけることを目標に、実用的な韓国語の会話を学習していきます。前期では文字と発音の練習に多くの時間を割き、徹底的に韓国語の発音を身につけます。韓国語で自己紹介ができ、それに関する簡単なやり取りができることを目標とします。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 朝鮮語の概要 2. 基本母音字母と合成母音字母 1 3. 基本子音字母 1 4. 基本子音字母 2 5. 合成母音字母 2 6. パッチム (終声) 1 7. パッチム (終声) 2 8. 発音規則 1 9. 発音規則 2 10. いろんな韓国語 (ドラマ、ニュース、歌など) の音になじむ 11. 自己紹介 1 12. 自己紹介 2 13. 自己紹介を使った会話 14. 復習 15. 期末テスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	出席、平常点、期末試験
履修上の注意 Requirements and policy	期末テストは、会話の暗記テストが中心になります。
教科書 Textbook(s)	金順玉他著 『チャレンジ!韓国語』 (白水社)
参考書 Reference(s)	韓日辞書
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	外国語会話IIIB（朝鮮語）						
担当教員	金 美善						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2～3	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	前期に引き続き、後期では基本的な文法や構文の習得を中心に、現在韓国で実際に使われる表現を暗記していきます。 授業では発話する機会を多く設け、韓国語で寸劇を行います。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 存在表現 2. 指示表現 3. 職業、趣味に関する表現 4. 数字 1 5. 数字 2 6. 数字を使った買い物 7. 私の一日 8. いろんな朝鮮語（映画、ニュース、お笑い番組など）を接してみよう 9. うちとけた「です、ます」 10. 過去表現 11. 未来表現 12. 語彙を増やそう 13. 寸劇 1 14. 寸劇 2 15. 期末テスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	平常点60%（欠席した場合は減点） 期末テスト40%
履修上の注意 Requirements and policy	毎回習ったところを暗記します。 期末テストは寸劇で行います。
教科書 Textbook(s)	金順玉他著 『チャレンジ！韓国語』 （白水社）
参考書 Reference(s)	韓日辞書
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	近代文学を学ぶA						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	坪内逍遙の世界 坪内逍遙の様々な問題を、小説『京わらんべ』を中心に考える
授業計画 Syllabus	第1回 ガイダンス 第2回 坪内逍遙のこと 第3回 第一回の概要 第4回 小説の舞台 第5回 第二回の概要 第6回 四迷のこと 第7回 第三回の概要 第8回 第四回の概要 第9回 第五回の概要 第10回 改良の嵐 第11回 第六回の概要 第12回 大団円 第13回 一応のまとめと筆記試験 第14回 筆記試験に関する質疑応答 第15回 総まとめ
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義中心
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%と筆記試験50%
履修上の注意 Requirements and policy	積極的な授業参加が必要
教科書 Textbook(s)	『京わらんべ』（リプリント日本近代文学） 発行：国文学研究資料館 発売：株式会社平凡社 ISBN978-4-256-90025-3 C3393
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	近代文学を学ぶB						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	山田美妙の世界 山田美妙の多様な問題を、その歴史小説を中心に考える。
授業計画 Syllabus	第1回 ガイダンス 第2回 山田美妙のこと 第3回 歴史小説のこと 第4回 『武蔵野』についての問題提起 第5回 『武蔵野』についてとりあえずの解決 第6回 『蝴蝶』についての問題提起 第7回 『蝴蝶』についてとりあえずの解決 第8回 後期の歴史小説 第9回 『四郎高綱』についての問題提起 第10回 『四郎高綱』についてとりあえずの解決 第11回 『二郎経高』についての問題提起 第12回 『二郎経高』についてとりあえずの解決 第13回 一応のまとめと筆記試験 第14回 筆記試験に関する質疑応答 第15回 総まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義中心
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%と筆記試験50%
履修上の注意 Requirements and policy	積極的な授業参加が必要
教科書 Textbook(s)	山根賢吉、菊池真一編 『美妙文学選』 和泉書院 ISBN : 978-4-87088-645-2
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	近代文学を読むA						
担当教員	太田 路枝						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>明治の小説を読む</p> <p>この授業では、文学作品を研究対象として精読します。ストーリーの展開を愉しむ一般的な読書とは異なり、細部に注意を払い、一語一句を確認しながら丁寧に作品を読みすすめます。作品世界の背景を知るためには、丁寧な調査も必要です。調査と考察を重ね、作品を解釈してみましょう。</p> <p>五千円札でおなじみの樋口一葉のほか、夏目漱石、泉鏡花をとりあげます。</p> <p>到達目標</p> <p>レポートや論文を書くために必要な基礎知識や方法論を身につけます。自分なりの作品解釈ができるようになります。また、先行研究や他者の論を読み、自分の見解との違いについて述べるようになります。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 夏目漱石「夢十夜」「永日小品」より(1)</p> <p>第2回 夏目漱石「夢十夜」「永日小品」より(2)</p> <p>第3回 樋口一葉の日記(1)</p> <p>第4回 樋口一葉の日記(2)</p> <p>第5回 樋口一葉の日記(3)</p> <p>第6回 泉鏡花「外科室」(1)</p> <p>第7回 泉鏡花「外科室」(2)</p> <p>第8回 泉鏡花「外科室」(3)</p> <p>第9回 泉鏡花「外科室」(4)</p> <p>第10回 樋口一葉「にごりえ」(1)</p> <p>第11回 樋口一葉「にごりえ」(2)</p> <p>第12回 樋口一葉「にごりえ」(3)</p> <p>第13回 樋口一葉「にごりえ」(4)</p> <p>第14回 参考作品鑑賞</p> <p>第15回 質疑応答と試験</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義を中心としますが、発表や討議を織り交ぜる場合もあります。
評価方法 Evaluation	試験70%、平常点30%
履修上の注意 Requirements and policy	10回以上の出席がないと、受講資格を失います。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	近代文学を読むB						
担当教員	太田 路枝						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>明治の小説を読む</p> <p>この授業では、文学作品を研究対象として精読します。ストーリーの展開を愉しむ一般的な読書とは異なり、細部に注意を払い、一語一句を確認しながら丁寧に作品を読みすすめます。作品世界の背景を知るためには、丁寧な調査も必要です。調査と考察を重ね、作品を解釈してみましょう。</p> <p>五千円札でおなじみの樋口一葉のほか、森鷗外、小泉八雲をとりあげます。</p> <p>到達目標</p> <p>レポートや論文を書くために必要な基礎知識や方法論を身につけます。自分なりの作品解釈ができるようになります。また、先行研究や他者の論を読み、自分の見解との違いについて述べるようになります。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 小泉八雲「骨董」「怪談」より(1)</p> <p>第2回 小泉八雲「骨董」「怪談」より(2)</p> <p>第3回 樋口一葉「十三夜」(1)</p> <p>第4回 樋口一葉「十三夜」(2)</p> <p>第5回 樋口一葉「十三夜」(3)</p> <p>第6回 森鷗外「舞姫」「普請中」(1)</p> <p>第7回 森鷗外「舞姫」「普請中」(2)</p> <p>第8回 森鷗外「舞姫」「普請中」(3)</p> <p>第9回 森鷗外「舞姫」「普請中」(4)</p> <p>第10回 樋口一葉「たけくらべ」(1)</p> <p>第11回 樋口一葉「たけくらべ」(2)</p> <p>第12回 樋口一葉「たけくらべ」(3)</p> <p>第13回 樋口一葉「たけくらべ」(4)</p> <p>第14回 参考作品鑑賞</p> <p>第15回 質疑応答と試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義を中心としますが、発表や討議を織り交ぜる場合もあります。
評価方法 Evaluation	試験70%、平常点30%
履修上の注意 Requirements and policy	10回以上の出席がないと、受講資格を失います。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	近代文学史A						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	日本の近代小説史の把握 日本の近代小説を「都市」をキー・ワードにして読むとくことにより、その歴史を確実に把握する。
授業計画 Syllabus	第1回 ガイダンス 第2回 都市とは？ 第3回 夜行巡査 第4回 十三夜 第5回 少女病 第6回 窮死 第7回 秘密 第8回 小僧の神様 第9回 舞踏会 第10回 檸檬 第11回 水族館 第12回 近代文学と現代文学 第13回 一応のまとめと筆記試験 第14回 筆記試験に関する質疑応答 第15回 総まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義中心
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%と筆記試験50%
履修上の注意 Requirements and policy	積極的な授業参加が必要
教科書 Textbook(s)	編者 東郷克美・吉田司雄 『近代小説「都市」を読む』 双文社出版 ISBN4-88164-072-0
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	近代文学史B						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	日本の近代詩史の把握 日本近代の詩人と、その詩作品の文学的影響、価値等を考えつつ、歴史的意味を問う。
授業計画 Syllabus	第1回 ガイダンス 第2回 近代詩とは？ 第3回 近世以前の詩 第4回 明治十年代の詩 第5回 明治二十年代の詩 第6回 明治三十年代の詩 第7回 明治四十年代の詩 第8回 大正時代の詩 第9回 昭和ひとけたの詩 第10回 昭和十年代の詩 第11回 昭和二十年代の詩 第12回 昭和三十年代の詩 第13回 一応のまとめと筆記試験 第14回 筆記試験に関する質疑応答 第15回 総まとめ
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	講義中心
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%と筆記試験50%
履修上の注意 Requirements and policy	積極的な授業参加が必要
教科書 Textbook (s)	編者 吉田弥寿夫・萬田務 『展望近代詩』 双文社出版 ISBN4-88164-003-8
参考書 Reference (s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	現代日本語入門A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、あたりまえの日本語の中にある規則性を発見し、ことばへの感心を引き出す。また、コードスイッチングなどのことばの切り換えや、ことばの変化(乱れ)にも触れて、コミュニケーションの問題についても考える。できるだけ学生に作業やディスカッションをさせながら、日本語の文法のごく基礎的な知識が身につくよう配慮する。
授業計画 Syllabus	第1回 はじめに 第2回 図書館活用の方法 第3回 ~頭・~匹、~本 — ものの数え方 第4回 ~と、~といっしょに — 動詞と文型 第5回 愛す人・愛する人 — 動詞の活用とその変化 第6回 取り組み・活動 — 動詞と名詞 第7回 うれしい・悲しい — 形容詞と感情 第8回 飛びます・痛いです — 動詞・形容詞とデス・マス 第9回 動詞・形容詞の問題まとめ 第10回 あなた — 人の呼称1 第11回 人が心配してるのに — 人の呼称2 第12回 ここでお待ちしてください。 — 敬語 第13回 あすお目にかかります。 — ことばの選択・コードスイッチング 第14回 コミュニケーションの問題まとめ 第15回 試験・まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験40% 平常点60%
履修上の注意 Requirements and policy	自分の覚え書きとしてのノートを作ることを心がけてほしい(大学の学びの基本です)。ディスカッションや作業には積極的に参加すること。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	現代日本語入門A						
担当教員	村上 敬一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、あたりまえの日本語の中にある規則性を発見し、ことばへの感心を引き出す。また、コードスイッチングなどのことばの切り換えや、ことばの変化(乱れ)にも触れて、コミュニケーションの問題についても考える。できるだけ学生に作業やディスカッションをさせながら、日本語の文法のごく基礎的な知識が身につくよう配慮する。
授業計画 Syllabus	第1回 はじめに 第2回 図書館活用の方法 第3回 ~頭・~匹、~本 — ものの数え方 第4回 ~と、~といっしょに — 動詞と文型 第5回 愛す人・愛する人 — 動詞の活用とその変化 第6回 取り組み・活動 — 動詞と名詞 第7回 うれしい・悲しい — 形容詞と感情 第8回 飛びます・痛いです — 動詞・形容詞とデス・マス 第9回 動詞・形容詞の問題まとめ 第10回 あなた — 人の呼称1 第11回 人が心配してるのに — 人の呼称2 第12回 ここでお待ちしてください。 — 敬語 第13回 あすお目にかかります。 — ことばの選択・コードスイッチング 第14回 コミュニケーションの問題まとめ 第15回 試験・まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式
評価方法 Evaluation	試験40% 平常点60%
履修上の注意 Requirements and policy	自分の覚え書きとしてのノートを作ることを心がけてほしい(大学の学びの基本です)。ディスカッションや作業には積極的に参加すること。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	現代日本語入門A						
担当教員	吉井 健						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、あたりまえの日本語の中にある規則性を発見し、ことばへの感心を引き出す。また、コードスイッチングなどのことばの切り換えや、ことばの変化(乱れ)にも触れて、コミュニケーションの問題についても考える。できるだけ学生に作業やディスカッションをさせながら、日本語の文法のごく基礎的な知識が身につくよう配慮する。
授業計画 Syllabus	第1回 はじめに 第2回 図書館活用の方法 第3回 ~頭・~匹、~本 — ものの数え方 第4回 ~と、~といっしょに — 動詞と文型 第5回 愛す人・愛する人 — 動詞の活用とその変化 第6回 取り組み・活動 — 動詞と名詞 第7回 うれしい・悲しい — 形容詞と感情 第8回 飛びます・痛いです — 動詞・形容詞とデス・マス 第9回 動詞・形容詞の問題まとめ 第10回 あなた — 人の呼称1 第11回 人が心配してるのに — 人の呼称2 第12回 ここでお待ちしてください。 — 敬語 第13回 あすお目にかかります。 — ことばの選択・コードスイッチング 第14回 コミュニケーションの問題まとめ 第15回 試験・まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験40% 平常点60%
履修上の注意 Requirements and policy	自分の覚え書きとしてのノートを作ることを心がけてほしい(大学の学びの基本です)。ディスカッションや作業には積極的に参加すること。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	現代日本語入門B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	文章を書くことは、大学の勉学に欠かせないことであり、かつ、社会に出ても役立つ能力である。この授業では、文芸的な文章ではなく、論説的な文章に重点を置いて、文章の構造や、表現の的確さを高める上での修飾や接続の仕方を分析する。また、短い文章を書くことを数回に亘って課す。さらに、〈感謝〉などいくつかのコミュニケーション上の領域で使われる表現を分析し、さまざまな表現からパターンを整理することを学ぶ。
授業計画 Syllabus	第1回 導入 メールは書きことばか話しことばか 第2回 新聞の文章を分析する 方法篇：センテンスの長さ・統語構造など 第3回 新聞の文章を分析する 発表篇 第4回 新聞以外の論説的な文章を分析する 方法篇：センテンスの長さ・統語構造など 第5回 新聞以外の論説的な文章を分析する 発表篇 第6回 レシピの文章を分析する 方法篇：テンスの現れ方など 第7回 レシピの文章を分析する 実践篇：わかりやすさの工夫 第8回 日常を他者の視点で書く文章 人称制限について 第9回 日常を他者の視点で書く文章 一人称の表現と非一人称の表現 第10回 さまざまな文章のスタイル 第11回 依頼の表現 第12回 ことわりの表現 第13回 謝罪の表現 第14回 感謝の表現 第15回 試験・まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験40% 平常点60%
履修上の注意 Requirements and policy	ディスカッションや作業には積極的に参加すること。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配付する。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	現代日本語入門B						
担当教員	村上 敬一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	文章を書くことは、大学の勉学に欠かせないことであり、かつ、社会に出ても役立つ能力である。この授業では、文芸的な文章ではなく、論説的な文章に重点を置いて、文章の構造や、表現の的確さを高める上での修飾や接続の仕方を分析する。また、短い文章を書くことを数回に亘って課す。さらに、〈感謝〉などいくつかのコミュニケーション上の領域で使われる表現を分析し、さまざまな表現からパターンを整理することを学ぶ。
授業計画 Syllabus	第1回 導入 メールは書きことばか話しことばか 第2回 新聞の文章を分析する 方法篇：センテンスの長さ・統語構造など 第3回 新聞の文章を分析する 発表篇 第4回 新聞以外の論説的な文章を分析する 方法篇：センテンスの長さ・統語構造など 第5回 新聞以外の論説的な文章を分析する 発表篇 第6回 レシピの文章を分析する 方法篇：テンスの現れ方など 第7回 レシピの文章を分析する 実践篇：わかりやすさの工夫 第8回 日常を他者の視点で書く文章 人称制限について 第9回 日常を他者の視点で書く文章 一人称の表現と非一人称の表現 第10回 さまざまな文章のスタイル 第11回 依頼の表現 第12回 ことわりの表現 第13回 謝罪の表現 第14回 感謝の表現 第15回 試験・まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験40% 平常点60%
履修上の注意 Requirements and policy	ディスカッションや作業には積極的に参加すること。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配付する。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	現代日本語入門B						
担当教員	吉井 健						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	文章を書くことは、大学の勉学に欠かせないことであり、かつ、社会に出ても役立つ能力である。この授業では、文芸的な文章ではなく、論説的な文章に重点を置いて、文章の構造や、表現の的確さを高める上での修飾や接続の仕方を分析する。また、短い文章を書くことを数回に亘って課す。さらに、〈感謝〉などいくつかのコミュニケーション上の領域で使われる表現を分析し、さまざまな表現からパターンを整理することを学ぶ。
授業計画 Syllabus	第1回 導入 メールは書きことばか話しことばか 第2回 新聞の文章を分析する 方法篇：センテンスの長さ・統語構造など 第3回 新聞の文章を分析する 発表篇 第4回 新聞以外の論説的な文章を分析する 方法篇：センテンスの長さ・統語構造など 第5回 新聞以外の論説的な文章を分析する 発表篇 第6回 レシピの文章を分析する 方法篇：テンスの現れ方など 第7回 レシピの文章を分析する 実践篇：わかりやすさの工夫 第8回 日常を他者の視点で書く文章 人称制限について 第9回 日常を他者の視点で書く文章 一人称の表現と非一人称の表現 第10回 さまざまな文章のスタイル 第11回 依頼の表現 第12回 ことわりの表現 第13回 謝罪の表現 第14回 感謝の表現 第15回 試験・まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験40% 平常点60%
履修上の注意 Requirements and policy	ディスカッションや作業には積極的に参加すること。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配付する。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国語学を学ぶA						
担当教員	岡村 裕美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	この授業では、日本語のいろいろな文法体系を研究者ごとに概説します。 現在の「日本語の文法」は、小中学校で学ぶ学校文法や古典文法、日本語を母語としない人たちのための日本語教育文法など、目的に応じた文法がありますが、ここで扱う「文法」は、日本語の仕組みを体系的に説明するための文法です。内容によっては100年ほど前のものもあり、やや古く感じるかもしれませんが、現在の文法の礎となっているものです。複数の研究者の品詞分類の基準や文の成立についての考え方を比較しながら、文とは何か、言葉とは何かを考えます。また、授業を通じ、対象を体系的にとらえる考え方を身につけます。 キーワード「語」「文の成立」「文法体系」
授業計画 Syllabus	第1回：国語と国語学 第2回：山田孝雄の文法 第3回：四品詞分類の基準 第4回：文の成立（1） 第5回：山田文法のまとめ 第6回：時枝誠記の文法 第7回：「言語過程説」 第8回：詞辞分類「詞」 第9回：文の成立（2） 第10回：時枝文法のまとめ 第11回：渡辺実の構文論 第12回：語の機能 第13回：文の成立（3） 第14回：渡辺文法のまとめ 第15回：質疑と試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	小レポート60%・試験40%
履修上の注意 Requirements and policy	各「まとめ」の際、小レポートを課します。3回のうち2回以上提出することが、試験受験の条件です。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国語学を学ぶB						
担当教員	岡村 裕美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>この授業では、現在の日本語の文法について概説します。</p> <p>現在の「日本語の文法」は、小中学校で学ぶ学校文法や古典文法、日本語を母語としない人たちのための日本語教育文法など、目的に応じた文法がありますが、ここで扱う「文法」は、実際に使われている文を記述して規則・仕組みを説明しようとするものです。ふだん何気なく使っている日本語を説明するための文法カテゴリーを、できるだけ具体例をあげながら説明します。また、授業を通じ、対象を観察し、そこから規則を導き出す力身につけます。</p> <p>キーワード「文法カテゴリー」「記述」「文法体系」</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：国語学と日本語学</p> <p>第2回：寺村秀夫の文法</p> <p>第3回：品詞分類</p> <p>第4回：「コト」</p> <p>第5回：「ムード」</p> <p>第6回：寺村文法のまとめ</p> <p>第7回：現在の日本語記述文法の基礎</p> <p>第8回：ヴォイス</p> <p>第9回：テンス・アスペクト</p> <p>第10回：記述文法のまとめ（1）</p> <p>第11回：自動詞と他動詞</p> <p>第12回：複文（1）</p> <p>第13回：複文（2）</p> <p>第14回：記述文法のまとめ（2）</p> <p>第15回：質疑と試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	小レポート60%・試験40%
履修上の注意 Requirements and policy	各「まとめ」の際、小レポートを課します。3回のうち2回以上提出することが、試験受験の条件です。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国語学を学ぶC						
担当教員	山極 美奈子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	日本語教師にとって必要な「第二言語習得論」について学んでいきます。語学教育の現場で起きる様々な現象やなぜ「第二言語習得論」が必要なのか、一緒に考えていきましょう。
授業計画 Syllabus	第1回：オリエンテーション 第2回：第二言語習得論とは 第3回：中間言語①（学習者独自の言語体系） 第4回：中間言語②（中間言語の発達） 第5回：母語の影響①（母語の転移） 第6回：母語の影響②（言語転移） 第7回：習得順序 第8回：発達順序 第9回：インプット 第10回：アウトプット 第11回：文法を教える①（意識的な知識） 第12回：文法を教える②（教室での学習の役割） 第13回：文法を教える③（教室でのインプット） 第14回：まとめと質疑応答 第15回：レポート提出と質疑応答
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	基本的には講義形式ですが、ミニ発表やグループワークなどの可能性があります。これらの活動も評価対象になります。
評価方法 Evaluation	出席（70%以上で評価対象）、課題、試験などの総合評価とする。評価配分は試験（課題含む）結果50%、授業中の平常点（参加度・発言・態度など）50%とする。
履修上の注意 Requirements and policy	自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して行って欲しいと思います。なお授業の一環として学外見学・研修の可能性があります。
教科書 Textbook (s)	「日本語を教えるための第二言語習得論入門」 監修：白井泰弘 著者：大関浩美 くろしお出版 ISBN978-4-87424-480-7
参考書 Reference (s)	「日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド」著者：ヒューマンアカデミー ISBN978-4-7981-1788-1 「バイリンガル教育の方法 12歳までに親と教師ができること」著者：中島和子 ISBN4-7574-0282-1
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国語学を学ぶD						
担当教員	山極 美奈子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	日本語教師にとって必要な「第二言語習得論」について学んでいきます。語学教育の現場で起きる様々な現象やなぜ「第二言語習得論」が必要なのか、一緒に考えていきましょう。
授業計画 Syllabus	第1回：オリエンテーション 第2回：インプット重視の指導 第3回：フォーカス・オン・フォーム 第4回：フィードバック 第5回：年齢の影響①（臨界期） 第6回：年齢の影響②（バイリンガリズム） 第7回：個人差の影響①（言語適性） 第8回：個人差の影響②（学習スタイル） 第9回：個人差の影響③（動機づけ） 第10回：個人差の影響④（学習ストラテジー） 第11回：教室で私たちにできること①（第二言語教育） 第12回：教室で私たちにできること②（習得は難しい？） 第13回：教室で私たちにできること③（教えたことはすぐ使う？） 第14回：まとめと質疑応答 第15回：レポート提出と質疑応答
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	基本的には講義形式ですが、ミニ発表やグループワークなどの可能性があります。これらの活動も評価対象になります。
評価方法 Evaluation	出席（70%以上で評価対象）、課題、試験などの総合評価とする。評価配分は試験（課題含む）結果50%、授業中の平常点（参加度・発言・態度など）50%とする。
履修上の注意 Requirements and policy	自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して行って欲しいと思います。なお授業の一環として学外見学・研修の可能性があります。
教科書 Textbook (s)	「日本語を教えるための第二言語習得論入門」 監修：白井泰弘 著者：大関浩美 くろしお出版 ISBN978-4-87424-480-7
参考書 Reference (s)	「日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド」著者：ヒューマンアカデミー ISBN978-4-7981-1788-1 「バイリンガル教育の方法 12歳までに親と教師ができること」著者：中島和子 ISBN4-7574-0282-1
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国語学を学ぶE						
担当教員	尾山 慎						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「国語学を学ぶ」とは、国語を対象に蓄積されてきた研究の歴史と現状を学ぶということである。こういった歩みのもとに、こういった研究がこれまでなされてきたのかを知ることがまず第一歩ということになる。そしてまたこの先、どのような研究の課題が残されているかを知らなくてはならない。</p> <p>国語学についての全般的な知識を得ることが基本だが、用語の暗記に終始するのではなく、実例に基づいて内省的に国語学と向き合う力を養うのが目的である。前期の当講義はおもに歴史的な点からアプローチする。後期に開講される同講義では現代の研究を扱う。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1、国語と日本語 世界における言語研究 2、「古語」とその注釈の研究史 その① 3、「古語」とその注釈の研究史 その② 4、漢字音を中心とする音韻研究史 5、仮名遣いの研究史 その① 6、仮名遣いの研究史 その② 7、日本語音韻の研究史 8、文法研究史 その① 9、文法研究史 その② 10、【小テスト】これまでのおさらい 11、語彙研究史（古辞書） 12、方言研究史 13、外国人による日本語の研究史 14、総まとめ 15、テストおよび解説
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<p>講義が基本だが、受講生にも積極的な発言を期待する（出欠確認をかねて、あてる）</p> <p>出席は毎回取る。</p> <p>課題が出され、翌週にそれを発表してもらう場合がある。</p> <p>教員からの一方通行的な講義ではない。</p>
評価方法 Evaluation	<p>授業平常点（発言内容、発表内容など）20%</p> <p>学期末テスト80%</p> <p>出席点（減点方式。全出席して±0である）</p> <p>以上をもって総合的に判断する。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>講義はもちろん、他の人の発表を聞き、質疑応答を交わすことで論理的な思考力は養われる。</p> <p>積極的な参加を期待する。</p>
教科書 Textbook(s)	適宜プリント等を配布する。
参考書 Reference(s)	授業中に適宜紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国語学を学ぶF						
担当教員	尾山 慎						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「国語学を学ぶ」とは、国語を対象に蓄積されてきた研究の歴史と現状を学ぶということである。どういった歩みのもとに、どういった研究がこれまでなされてきたのかを知ることがまず第一歩ということになる。そしてまたこの先、どのような研究の課題が残されているかを知らなくてはならない。</p> <p>国語学についての全般的な知識を得ることが基本だが、用語の暗記に終始するのではなく、実例に基づいて内省的に国語学と向き合う力を養うのが目的である。後期の当講義はおもに研究の現在を追っていく。前期に開講されている「国語学を学ぶE」を踏まえたものであるため、これを履修していることが望ましい。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1、前期のおさらい 2、言語学と国語学の違い 3、文法研究の現在 その① 4、文法研究の現在 その② 5、表記研究の現在 その① 6、表記研究の現在 その② 7、音韻研究の現在 8、【小テスト】これまでのおさらい 9、語彙研究の現在 10、文学研究と国語学 11、計量国語学 12、日本語教育学の現在 13、比較言語学の現在 14、総まとめ 15、テストおよび解説
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<p>講義が基本だが、受講生にも積極的な発言を期待する（出欠確認をかねて、あてる）</p> <p>出席は毎回取る。</p> <p>課題が出され、翌週にそれを発表してもらう場合がある。</p> <p>ディスカッション形式を取る場合がある。</p> <p>いずれにせよ教員からの一方通行的な講義ではないので自覚をもって受講されたい。</p>
評価方法 Evaluation	<p>授業平常点（発言内容、発表内容など）20%</p> <p>学期末テスト80%</p> <p>出席点（減点方式。全出席して±0である）</p> <p>以上をもって総合的に判断する。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>講義はもちろん、他の人の発表を聞き、質疑応答を交わすことで論理的な思考力は養われる。</p> <p>積極的な参加を期待する。</p>
教科書 Textbook(s)	適宜プリント等を配布する。
参考書 Reference(s)	授業中に適宜紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第1演習A						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	恋愛小説の読み方を考える 二十一世紀の現代小説、梶尾真治『つばき、時跳び』を読む。梶尾真治はSF作家と目されているが、そのような分類を無効にする魅力的な作品を数多く執筆している。 梶尾真治は映画『黄泉がえり』や『この胸いっぱいの愛を』の原作者でもあり、『つばき、時跳び』は舞台上演もなされた。ドラマや映画、演劇と小説の関連にも留意しつつ、小説の面白さを満喫してもらうことにする。
授業計画 Syllabus	第1回 ガイダンス 第2回 SF文学の諸問題1 第3回 SF文学の諸問題2 第4回 SF文学の諸問題3 第5回 梶尾真治の世界 第6回 『つばき、時跳び』1 第7回 『つばき、時跳び』2 第8回 『つばき、時跳び』3 第9回 『つばき、時跳び』4 第10回 『つばき、時跳び』5 第11回 『つばき、時跳び』6 第12回 『つばき、時跳び』7 第13回 『つばき、時跳び』8 第14回 『つばき、時跳び』9 第15回 まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取組状況等の評価70%とレポート試験30%
履修上の注意 Requirements and policy	積極的な授業参加が必要
教科書 Textbook(s)	梶尾真治『つばき、時跳び』（平凡社ライブラリー） ISBN978-4-582-76703-2 C0393
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第1演習A						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>『傾城武道桜』 1 元禄15年12月、赤穂浪士が江戸本所の吉良邸に討ち入り、主君の敵討ちを果たす。この事件に取材したもっとも早い浮世草子（小説）が『傾城武道桜』である。作者は西沢一風。事件から2年半後のことである。</p> <p>しかし事件を題材にすることは、幕府を批判することにもなりかねない危険な冒険である。『傾城武道桜』では、遊女が愛人の敵を討つという、いかにも元禄的な形で描くこととなる。同じ事件に取材した近松の『碁盤太平記』や事件を集大成した『仮名手本忠臣蔵』のような面白さとは異なる、当時の人々の関心のありかたを知ることできるかもしれない。従来あまり注目されることのなかった作品であるが、江戸時代に出版された原本（写真版）も参考にしながら、じっくりと楽しく読んでみたい。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 浮世草子概説</p> <p>第2回 『傾城武道桜』 巻1-1 発端1</p> <p>第3回 『傾城武道桜』 巻1-1 発端2</p> <p>第4回 『傾城武道桜』 巻1-2 展開1-1</p> <p>第5回 『傾城武道桜』 巻1-2 展開1-2</p> <p>第6回 『傾城武道桜』 巻1-3 展開2-1</p> <p>第7回 『傾城武道桜』 巻1-3 展開2-2</p> <p>第8回 『傾城武道桜』 巻1-4 展開3-1</p> <p>第9回 『傾城武道桜』 巻1-4 展開3-2</p> <p>第10回 『傾城武道桜』 巻1-5 展開4-1</p> <p>第11回 『傾城武道桜』 巻1-5 展開4-2</p> <p>第12回 『傾城武道桜』 巻1のまとめ</p> <p>第13回 禁制の廓制度</p> <p>第14回 巻2以下の展望</p> <p>第15回 浮世草子としての『傾城武道桜』</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	平常点50% 発表点50%
履修上の注意 Requirements and policy	出席重視。毎時間、積極的に参加することが重要。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第1演習A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>母語である日本語を「外国語として見る」ことは、それほど簡単なことではありません。なぜなら、私たちは無意識のうちに母語としての日本語を自由に使いこなしているからです。</p> <p>そこで、日本語の教科書を分析したり、日本語学習者の誤用について考えることを通じて、私たちが無意識に使っている日本語について客観的に考えていきます。文法的には間違いではない「先生、今日の授業は良くできましたね」が何故おかしいのでしょうか。みんなでその理由をさぐってみましょう。</p> <p>授業の一環として海外技術者研修センター(AOTS)など学外の日本語教育機関における留学生対象の授業に参加することがあります。</p> <p><ステップ1> 日本語の教科書・教材研究の方法を学びます。 →その後、各自で担当の教科書を分析して、発表してもらいます。</p> <p><ステップ2> 日本語学習者の誤用分析の方法を学びます。 →その後、各自で担当の誤用を分析して、発表してもらいます。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 第一演習についての位置づけ</p> <p>第2回 日本語の教科書紹介と特徴</p> <p>第3回 日本語の教科書分析の方法</p> <p>第4回 教科書分析の論文紹介</p> <p>第5回 教科書分析の発表と質疑応答 1</p> <p>第6回 教科書分析の発表と質疑応答 2</p> <p>第7回 教科書分析の発表と質疑応答 3</p> <p>第8回 教科書分析の発表と質疑応答 4</p> <p>第9回 教科書分析の発表と質疑応答 5</p> <p>第10回 教材研究の方法</p> <p>第11回 教材研究の紹介</p> <p>第12回 教材研究の発表と質疑応答 1</p> <p>第13回 教材研究の発表と質疑応答 2</p> <p>第14回 教材研究の発表と質疑応答 3</p> <p>第15回 教材研究の発表と質疑応答 4</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心にする
評価方法 Evaluation	平常点 (50%) 発表 (20%) レポート (30%)
履修上の注意 Requirements and policy	<ul style="list-style-type: none"> ・出席するだけでなく、積極的な授業参加を望みます。 ・欠席するときは必ず事前に連絡してください。 ・4回以上欠席すると、受講資格を失います。
教科書 Textbook(s)	適宜ハンドアウトを配布
参考書 Reference(s)	

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第1演習A						
担当教員	片岡 利博						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	源氏物語の登場人物 源氏物語に登場する人物がどのように造形されているかを調査する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1 源氏物語についての概説(1) 講義 2 源氏物語のあらすじをまとめる(1) 以下、演習形式による。 3 源氏物語のあらすじをまとめる(2) 4 源氏物語のあらすじをまとめる(3) 5 源氏物語の登場人物についての知識をまとめる(1) 6 源氏物語の登場人物についての知識をまとめる(2) 7 各自が選んだ人物の登場する箇所を拾い出す(1) 8 各自が選んだ人物の登場する箇所を拾い出す(2) 9 登場場面についての解釈(1) 10 登場場面についての解釈(2) 11 登場場面についての解釈(3) 12 登場場面についての解釈(4) 13 登場場面についての解釈(5) 14 登場場面についての解釈(6) 15 前期演習のまとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式
評価方法 Evaluation	クラスでの報告と質疑応答(平常点)と、期末レポート
履修上の注意 Requirements and policy	主体的に授業に参加すること。
教科書 Textbook(s)	とくに指定しない。
参考書 Reference(s)	教室で指示する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第1演習A						
担当教員	村上 敬一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【目的】日本語の多様性について理解を深めるための基本的な知識を身につける。</p> <p>【概要】現代日本語の話しことばにおけるさまざまな問題点を知るために、応用日本語学（社会言語学・方言学・日本語教育学など）の文献を講読する。各自の興味・関心にしたがって、それぞれの課題を設定し発表する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 応用日本語学の論文を書くということ</p> <p>第2回 社会言語学、方言学、日本語教育学に関する論文の講読①</p> <p>第3回 社会言語学、方言学、日本語教育学に関する論文の講読②</p> <p>第4回 社会言語学、方言学、日本語教育学に関する論文の講読③</p> <p>第5回 社会言語学、方言学、日本語教育学に関する論文の講読④</p> <p>第6回 社会言語学、方言学、日本語教育学に関する論文の講読⑤</p> <p>第7回 社会言語学、方言学、日本語教育学に関する論文の講読⑥</p> <p>第8回 社会言語学、方言学、日本語教育学に関する論文の講読⑦</p> <p>第9回 社会言語学、方言学、日本語教育学に関する論文の講読⑧</p> <p>第10回 社会言語学、方言学、日本語教育学に関する論文の講読⑨</p> <p>第11回 社会言語学、方言学、日本語教育学に関する論文の講読⑩</p> <p>第12回 各自の研究計画の検討①</p> <p>第13回 各自の研究計画の検討②</p> <p>第14回 予備調査の実施①</p> <p>第15回 予備調査の実施②</p> <p>※ 夏休み中に、各自のテーマに従った言語調査を行なう。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	各回ごとの担当者を中心に、論文などの講読を行う。出席者全員で討論するとともに、授業担当者が適宜指導、補足を行う。
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価70%とレポート、試験30%
履修上の注意 Requirements and policy	講読、テーマ発表に際して、発表者には入念な準備を、参加者には活発な討論を期待する。
教科書 Textbook(s)	授業中に紹介する。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第1演習A						
担当教員	吉井 健						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ことばの論理を説明することを目的とする。</p> <p>この授業では、二年次までに概説的に学んだ知識を実践的に用いて、現実のことばを分析する。そうして次年度に卒業論文を書く準備をする。授業は発表討議形式を基本として行う。その中で、参加者の日本語使用への配慮がより精細になってゆくことも期待している。</p> <p>古典語はもちろん、現代語研究においても用例の収集と分析は欠かせない作業である。Aではまずテキストをもとにさまざまな問題にふれ、その問題を考えるために電子化されたものやその他の資料からことばのデータを集める方法を学ぶ。</p> <p>さらにそうして集まったデータをどのように整理すれば規則性が見えてくるか作業を通して考えてゆく。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1) ゼミ形式の授業について テキストの解説 2) 日本語の研究分野 3) データ収集の必要性 4) 課題に応じたデータ収集の方法 1 5) 課題に応じたデータ収集の方法 2 6) 個人発表 1 (内容未定) 7) 補足・コメント整理 1 8) 個人発表 2 (内容未定) 9) 補足・コメント整理 2 10) 個人発表 3 (内容未定) 11) 補足・コメント整理 3 12) 個人発表 4 (内容未定) 13) 補足・コメント整理 4 14) 研究課題の再考 15) まとめ
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	発表や質疑の内容50%・レポート30%・平常の学習態度20%
履修上の注意 Requirements and policy	<p>演習は参加者全員が作り上げてゆくものである。欠席は相応の理由がない限り許されない。</p> <p>万が一欠席の場合は必ず連絡をすること。</p> <p>必要に応じ学外研修を行う。</p>
教科書 Textbook (s)	<p>山田敏広『日本語のしくみ』(白水社)</p> <p>ISBN 978-4--560-08500-4</p>
参考書 Reference (s)	<p>クリティカル・シンキング (入門編) 著</p> <p>E・B・ゼックミスタ、J・E・ジョンソン (北大路書房)</p>
備考 Remarks	参考文献は必ずしも購入の必要はない。

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第1演習B						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>恋愛小説の新たな読み方を考える 二十一世紀の現代小説、北村薫『ひとがた流し』を読む。北村薫はミステリー作家と目されているが、そのような分類を無効にする魅力的な作品を数多く執筆している。 『ひとがた流し』は沢口靖子主演でテレビドラマ化されているので、ドラマや映画と小説の関連にも留意しつつ、小説の面白さを満喫してもらうことにする。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 ガイダンス 第2回 日本の文学 第3回 小説というジャンル 第4回 覆面作家のこと 第5回 北村薫の世界 第6回 『ひとがた流し』 1 第7回 『ひとがた流し』 2 第8回 『ひとがた流し』 3 第9回 『ひとがた流し』 4 第10回 『ひとがた流し』 5 第11回 『ひとがた流し』 6 第12回 『ひとがた流し』 7 第13回 『ひとがた流し』 8 第14回 『ひとがた流し』 9 第15回 まとめ</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	演習形式						
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取組状況等の評価70%とレポート試験30%						
履修上の注意 Requirements and policy	積極的な授業参加が必要						
教科書 Textbook(s)	北村薫著『ひとがた流し』（新潮文庫） ISBN:978-4-10-137331-7						
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する						
備考 Remarks							

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第1演習B						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	『傾城武道桜』2 前期に続き『傾城武道桜』を読む。赤穂事件を、遊女が愛人の敵を討つという、いかにも元禄的な形で描く作品。従来あまり注目されることのなかったが、江戸時代に出版された原本（写真版）も参考にしながら、じっくりと楽しく読んでみたい。
授業計画 Syllabus	第1回 赤穂事件概説 第2回 『傾城武道桜』巻2-1 第3回 『傾城武道桜』巻2-2 第4回 『傾城武道桜』巻2-3 第5回 『傾城武道桜』巻2-4 第6回 『傾城武道桜』巻2-5 第7回 『傾城武道桜』巻3-1 第8回 『傾城武道桜』巻3-2 第9回 『傾城武道桜』巻3-3 第10回 『傾城武道桜』巻3-4 第11回 『傾城武道桜』巻3-5 第12回 『傾城武道桜』巻2のまとめ 第13回 『傾城武道桜』巻3のまとめ 第14回 事実と虚構 第15回 浮世草子と演劇
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	平常点50% 発表点50%
履修上の注意 Requirements and policy	出席重視。毎時間、積極的に参加することが重要。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第1演習B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>母語である日本語を「外国語として見る」ことは、それほど簡単なことではありません。なぜなら、私たちは無意識のうちに母語としての日本語を自由に使いこなしているからです。</p> <p>そこで、日本語の教科書を分析したり、日本語学習者の誤用について考えることを通じて、私たちが無意識に使っている日本語について客観的に考えていきます。文法的には間違いではない「先生、今日の授業は良くできましたね」が何故おかしいのでしょうか。みんなでその理由をさぐってみましょう。</p> <p>授業の一環として海外技術者研修センター(AOTS)など学外の日本語教育機関における留学生対象の授業に参加することがあります。</p> <p><ステップ1> 日本語の教科書・教材研究の方法を学びます。 →その後、各自で担当の教科書を分析して、発表してもらいます。</p> <p><ステップ2> 日本語学習者の誤用分析の方法を学びます。 →その後、各自で担当の誤用を分析して、発表してもらいます。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 誤用研究とは何か</p> <p>第2回 誤用研究の分析と方法</p> <p>第3回 誤用研究分析の発表と質疑応答1</p> <p>第4回 誤用研究分析の発表と質疑応答2</p> <p>第5回 誤用研究分析の発表と質疑応答3</p> <p>第6回 誤用研究分析の発表と質疑応答4</p> <p>第7回 各自のテーマ決め</p> <p>第8回 各自のテーマに沿った発表と質疑応答</p> <p>第9回 各自のテーマに沿った発表と質疑応答</p> <p>第10回 各自のテーマに沿った発表と質疑応答</p> <p>第11回 各自のテーマに沿った発表と質疑応答</p> <p>第12回 各自のテーマに沿った発表と質疑応答</p> <p>第13回 各自のテーマに沿った発表と質疑応答</p> <p>第14回 演習のまとめ</p> <p>第15回 レポート作成指導</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心にする
評価方法 Evaluation	平常点(50%)発表(20%)レポート(30%)
履修上の注意 Requirements and policy	<ul style="list-style-type: none"> ・出席するだけでなく、積極的な授業参加を望みます。 ・欠席するときは必ず事前に連絡してください。 ・4回以上欠席すると、受講資格を失います。
教科書 Textbook(s)	適宜ハンドアウトを配布
参考書 Reference(s)	

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第1演習B						
担当教員	片岡 利博						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	源氏物語の登場人物についての研究
授業計画 Syllabus	1 登場人物についての考察(1) 2 同上(2) 3 同上(3) 4 同上(4) 5 同上(5) 6 同上(6) 7 同上(7) 8 同上(8) 9 同上(9) 10 同上(10) 11 登場人物についてのまとめ(1) 12 同上(2) 13 同上(3) 14 同上(4) 15 同上(5)
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式による
評価方法 Evaluation	クラスでの研究報告と質疑応答(平常点)および期末レポート
履修上の注意 Requirements and policy	
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第1演習B						
担当教員	村上 敬一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【目的】日本語の多様性についての理解を深める。</p> <p>【概要】前期に定めた各自の研究テーマにしたがって、調査・資料収集などを行い、各自が演習形式で発表し、討論を行う。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 調査結果のまとめ方（談話分析編）</p> <p>第2回 調査結果のまとめ方（計量調査編）</p> <p>第3回 個人別演習発表①</p> <p>第4回 個人別演習発表②</p> <p>第5回 個人別演習発表③</p> <p>第6回 個人別演習発表④</p> <p>第7回 個人別演習発表⑤</p> <p>第8回 個人別演習発表⑥</p> <p>第9回 個人別演習発表⑦</p> <p>第10回 個人別演習発表⑧</p> <p>第11回 個人別演習発表⑨</p> <p>第12回 個人別演習発表⑩</p> <p>第13回 個人別演習発表⑪</p> <p>第14回 卒業論文に向けて①</p> <p>第15回 卒業論文に向けて②</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	各回ごとに担当者を決めて、個人別の演習発表を行う。
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価70%とレポート、試験30%
履修上の注意 Requirements and policy	演習に際して、発表者には入念な準備と、参加者には活発な討論を期待する。
教科書 Textbook(s)	授業中に紹介する。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第1演習B						
担当教員	吉井 健						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ことばの論理を説明することを目的とする。</p> <p>この授業では、二年次までに概説的に学んだ知識を実践的に用いて、現実のことばを分析する。そうして次年度に卒業論文を書く準備をする。授業は発表討議形式を基本として行う。その中で、参加者の日本語使用への配慮がより精細になってゆくことも期待している。</p> <p>古典語はもちろん、現代語研究においても用例の収集と分析は欠かせない作業である。Aではまずテキストをもとにさまざまな問題にふれ、その問題を考えるために電子化されたものやその他の資料からことばのデータを集める方法を学ぶ。さらにそうして集まったデータをどのように整理すれば規則性が見えてくるか作業を通して考えてゆく。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1) 夏期休暇中の課題について 2) 発表テーマの紹介 3) 個人発表1 (内容未定) 4) 補足・コメント整理1 5) 個人発表2 (内容未定) 6) 補足・コメント整理2 7) 個人発表3 (内容未定) 8) 補足・コメント整理3 9) 個人発表4 (内容未定) 10) 補足・コメント整理4 11) 個人発表5 (内容未定) 12) 補足・コメント整理5 13) 個人発表6 (内容未定) 14) 補足・コメント整理6 15) まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	発表や質疑の内容50%・レポート30%・平常の学習態度20%
履修上の注意 Requirements and policy	<p>演習は参加者全員が作り上げてゆくものである。欠席は相応の理由がない限り許されない。</p> <p>万が一欠席の場合は必ず連絡をすること。</p> <p>必要に応じ学外研修を行う。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>山田敏広『日本語のしくみ』(白水社)</p> <p>ISBN 978-4-560-08500-4</p>
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第2演習A						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	歌舞伎に描かれた事件1 元禄10年、伊勢神宮近くの茶屋で実際に起こった殺傷事件が、歌舞伎に脚色されて『卯月九日其暁の明星が茶屋（うづきここのか そのあかつきの みょうじょうがちゃや）』となる。 本演習ではこれら作品をじっくりと読んで行きたい。江戸時代の人々と、何らかの好奇心を共有することができれば、次々と起こっては過ぎ去って行く事件の影に、生きた人々の涙や笑い、苦悶や慰みがあったことを知ることになるはずである。
授業計画 Syllabus	第1回 歌舞伎や人形浄瑠璃の世話物 第2回 歌舞伎『卯月九日其暁の明星が茶屋』1 第3回 歌舞伎『卯月九日其暁の明星が茶屋』2 第4回 歌舞伎『卯月九日其暁の明星が茶屋』3 第5回 歌舞伎『卯月九日其暁の明星が茶屋』4 第6回 歌舞伎『卯月九日其暁の明星が茶屋』5 第7回 元禄歌舞伎の演技様式 第8回 歌舞伎『卯月九日其暁の明星が茶屋』6 第9回 歌舞伎『卯月九日其暁の明星が茶屋』7 第10回 歌舞伎『卯月九日其暁の明星が茶屋』8 第11回 歌舞伎『卯月九日其暁の明星が茶屋』9 第12回 歌舞伎『卯月九日其暁の明星が茶屋』10 第13回 歌舞伎『卯月九日其暁の明星が茶屋』まとめ 第14回 歌舞伎の世話物、浄瑠璃の世話物 第15回 演劇の近代化
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	平常点50% 発表点50%
履修上の注意 Requirements and policy	出席重視。毎時間、積極的に参加することが重要。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第2演習A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>母語である日本語を「外国語として見る」ことは、それほど簡単なことではありません。なぜなら、私たちは無意識のうちに母語としての日本語を自由使いこなしているからです。</p> <p>そこで、日本語の話し言葉を分析したり、日本語学習者の間違いや、日本語に対する疑問について考えることを通じて、私たちが無意識に使っている日本語について客観的に考えていきます。第2演習は卒業研究のための演習です。授業中にふと疑問に思ったことはできるだけノートにとっておくことをおすすめします。「きれい」と「美しい」は何が違うんだろうというような、小さな疑問でも後からじっくり考えるためのヒントとなります。授業の一環として海外技術者研修センター(AOTS)など学外の日本語教育機関における留学生対象の授業に参加することがあります。</p> <p><ステップ1> 日本語の文法や語彙に関する分析の方法を学びます。</p> <p><ステップ2> 日本語の話し言葉の機能分析の方法を学びます。</p> <p><ステップ3> 卒業研究のテーマを決めて発表します。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 第2演習についての位置づけについての概説</p> <p>第2回 語彙分析の方法について</p> <p>第3回 語彙分析の発表と質疑応答1</p> <p>第4回 語彙分析の発表と質疑応答2</p> <p>第5回 語彙分析の発表と質疑応答3</p> <p>第6回 アンケート調査の方法について</p> <p>第7回 用例採取の方法論について</p> <p>第8回 会話分析の方法について</p> <p>第9回 会話分析の発表と質疑応答1</p> <p>第10回 会話分析の発表と質疑応答2</p> <p>第11回 会話分析の発表と質疑応答3</p> <p>第12回 用例分析の方法</p> <p>第13回 用例分析の発表と質疑応答1</p> <p>第14回 用例分析の発表と質疑応答2</p> <p>第15回 前期のまとめとレポートについての指示</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心にする						
評価方法 Evaluation	平常点(50%) 発表(20%) レポート(30%)						
履修上の注意 Requirements and policy	<ul style="list-style-type: none"> ・出席するだけでなく、積極的な授業参加を望みます。 ・欠席するときは必ず事前に連絡してください。 ・4回以上欠席すると、受講資格を失います。 						
教科書 Textbook(s)	適宜ハンドアウトを配布						

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第2演習A						
担当教員	田中 まき						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>平安時代の物語研究 我が国の古典文学の中で屹立する存在である『源氏物語』の演習をおこなう。 『源氏物語』は千年もの間、連綿と読み継がれ、後世の文学や文化全般に多大な影響を及ぼしてきた。 本演習では、その『源氏物語』の魅力を明らかにできるよう、読んでいきたい。 ただし『源氏物語』は五十四帖にも及ぶ大部な物語なので、授業でその全体を見渡すのは難しい。 そこで、本演習では、いわゆる『源氏物語』第1部を巻ごとに読んでいきたい。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 物語文学の展開相と『源氏物語』の概説講義 第2回 『源氏物語』の成立と構成についての講義 第3回 『源氏物語』の注釈の歴史についての講義 第4回 『源氏物語』の伝本についての講義 第5回 桐壺巻の演習 第6回 帚木巻の演習 第7回 空蝉巻の演習 第8回 夕顔巻の演習 第9回 若紫巻の演習 第10回 葵巻の演習 第11回 賢木巻の演習 第12回 須磨巻の演習 第13回 明石巻の演習 第14回 藤裏葉巻の演習 第15回 『源氏物語』第1部のまとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と演習
評価方法 Evaluation	<p>演習の発表内容。80% 演習に対する取り組み。20%</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>遅刻、欠席を厳に慎むこと。 なお、テーマに関連する京都方面への文学散策を予定している。</p>
教科書 Textbook(s)	常用源氏物語要覧 中野幸一編(武蔵野書院) 4-8386-0383-5
参考書 Reference(s)	<p>『源氏物語評釈』(角川書店) 新日本古典文学大系『源氏物語』(岩波書店) 新日本古典文学全集『源氏物語』(小学館) 『源氏物語図典』(小学館) その他については、授業中、提示する。</p>
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第2演習A						
担当教員	村上 敬一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>応用日本語学（社会言語学、方言学、日本語教育学など）にかかわる以下の問題を研究する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語行動（場面・状況によることばづかい、敬語の運用） 2. 言語接触（方言と、共通語・標準語の使い分け、中間方言など） 3. 言語変化（伝統的方言の共通語化、移住によることばの変化など） 4. 言語意識（ことばづかいを支える規範意識、アイデンティティなど） 5. 言語習得（幼児の母語習得、中間言語、第二言語習得論など） 6. 属性とことば（若者語、女性語、キャンパスことばなどの集団語）
授業計画 Syllabus	<p>第1回 第一演習の反省 第2回 各自の研究計画の再構成① 第3回 各自の研究計画の再編成② 第4回 研究計画の検討① 第5回 研究計画の検討② 第6回 調査内容の検討① 第7回 調査内容の検討② 第8回 調査内容の検討③ 第9回 調査内容の検討④ 第10回 調査内容の検討⑤ 第11回 調査の実施① 第12回 調査の実施② 第13回 調査の実施③ 第14回 調査の実施④ 第15回 調査の実施⑤</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価70%とレポート、試験30%
履修上の注意 Requirements and policy	発表者には入念な準備、参加者には活発な討論を期待する。
教科書 Textbook(s)	授業中に紹介する。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第2演習A						
担当教員	吉井 健						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	卒業論文執筆の視野を広げるため、現代日本語の基礎知識を確認する。
授業計画 Syllabus	1) 発表課題解説と担当者割り当て 2) 個人発表 (内容未定) 3) 個人発表 (内容未定) 4) 個人発表 (内容未定) 5) 個人発表 (内容未定) 6) 個人発表 (内容未定) 7) 個人発表 (内容未定) 8) 個人発表 (内容未定) 9) 個人発表 (内容未定) 10) 個人発表 (内容未定) 11) 個人発表 (内容未定) 12) 個人発表 (内容未定) 13) 補足発表 (これまでの発表の補足) 14) 補足発表 (これまでの発表の補足) 15) まとめ
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	発表や質疑の内容60% 平常点40%
履修上の注意 Requirements and policy	無断欠席厳禁。 就職活動などやむ得ない場合も必ずその旨申し出ること。
教科書 Textbook (s)	なし。
参考書 Reference (s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第2演習B						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	歌舞伎に描かれた事件2 元禄12年に大阪南の千日寺で男女の心中事件が起こる。これを歌舞伎化したのが『心中茶屋咄（しんじゅう ちやばなし）』である。本演習ではこれら作品をじっくりと読んで行きたい。江戸時代の人々と、何らかの好奇心を共有することができれば、次々と起こっては過ぎ去って行く事件の影に、生きた人々の涙や笑い、苦悶や慰みがあったことを知ることになるはずである。
授業計画 Syllabus	第1回 歌舞伎と人形浄瑠璃の交流 第2回 歌舞伎『心中茶屋咄』1 第3回 歌舞伎『心中茶屋咄』2 第4回 歌舞伎『心中茶屋咄』3 第5回 歌舞伎『心中茶屋咄』4 第6回 歌舞伎『心中茶屋咄』5 第7回 元禄歌舞伎の人物描写 第8回 歌舞伎『心中茶屋咄』6 第9回 歌舞伎『心中茶屋咄』7 第10回 歌舞伎『心中茶屋咄』8 第11回 歌舞伎『心中茶屋咄』9 第12回 歌舞伎『心中茶屋咄』10 第13回 歌舞伎『心中茶屋咄』まとめ 第14回 事実と虚構 第15回 歌舞伎の世話物 まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	平常点50% 発表点50%
履修上の注意 Requirements and policy	出席重視。毎時間、積極的に参加することが重要。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第2演習B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>母語である日本語を「外国語として見る」ことは、それほど簡単なことではありません。なぜなら、私たちは無意識のうちに母語としての日本語を自由使いこなしているからです。</p> <p>そこで、日本語の話し言葉を分析したり、日本語学習者の間違いや、日本語に対する疑問について考えることを通じて、私たちが無意識に使っている日本語について客観的に考えていきます。第2演習は卒業研究のための演習です。授業中にふと疑問に思ったことはできるだけノートにとっておくことをおすすめします。「きれい」と「美しい」は何が違うんだろうというような、小さな疑問でも後からじっくり考えるためのヒントとなります。授業の一環として海外技術者研修センター(AOTS)など学外の日本語教育機関における留学生対象の授業に参加することがあります。</p> <p><ステップ1> 日本語の文法や語彙に関する分析の方法を学びます。</p> <p><ステップ2> 日本語の話し言葉の機能分析の方法を学びます。</p> <p><ステップ3> 卒業研究のテーマを決めて発表します。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 夏期レポートの講評と問題点の発見 1</p> <p>第2回 夏期レポートの講評と問題点の発見 2</p> <p>第3回 夏期レポートの講評と問題点の発見 3</p> <p>第4回 用例採取の方法 1</p> <p>第5回 用例採取の方法 2</p> <p>第6回 各自のテーマの発表と質疑応答 1</p> <p>第7回 各自のテーマの発表と質疑応答 2</p> <p>第8回 各自のテーマの発表と質疑応答 3</p> <p>第9回 各自のテーマの発表と質疑応答 4</p> <p>第10回 各自のテーマの発表と質疑応答 5</p> <p>第11回 各自のテーマの発表と質疑応答 6</p> <p>第12回 各自のテーマの発表と質疑応答 7</p> <p>第13回 各自のテーマの発表と質疑応答 8</p> <p>第14回 各自のテーマの発表と質疑応答 9</p> <p>第15回 第2演習のまとめ</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心にする						
評価方法 Evaluation	平常点(50%) 発表(20%) レポート(30%)						
履修上の注意 Requirements and policy	<ul style="list-style-type: none"> ・出席するだけでなく、積極的な授業参加を望みます。 ・欠席するときは必ず事前に連絡してください。 ・4回以上欠席すると、受講資格を失います。 						
教科書 Textbook(s)	適宜ハンドアウトを配布						

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第2演習B						
担当教員	田中 まき						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>平安時代の物語研究 我が国の古典文学の中で屹立する存在である『源氏物語』の演習をおこなう。 『源氏物語』は千年の間、連綿と読み継がれ、後世の文学や文化全般に多大な影響を及ぼしてきた。 本演習では、その『源氏物語』の魅力を明らかにできるよう、読んでいきたい。 ただし『源氏物語』は五十四帖にも及ぶ大部な物語なので、授業でその全体を見渡すのは難しい。 そこで、本演習では、いわゆる『源氏物語』第2部と第3部を巻ごとに読んでいきたい。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 『源氏物語』の巻名と梗概についての講義 第2回 若菜上巻の演習 第3回 若菜下巻の演習 第4回 柏木巻の演習 第5回 鈴虫巻の演習 第6回 夕霧巻の演習 第7回 御法巻の演習 第8回 幻巻の演習 第9回 匂宮巻の演習 第10回 橋姫巻の演習 第11回 総角巻の演習 第12回 東屋巻の演習 第13回 浮舟巻の演習 第14回 夢浮橋巻の演習 第15回 『源氏物語』第2部・第3部についてのまとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と演習
評価方法 Evaluation	<p>演習の発表内容。80% 演習に対する取り組み。20%</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>遅刻、欠席を厳に慎むこと。 なお、テーマに関連する京都方面への文学散策を予定している。</p>
教科書 Textbook(s)	第2演習Aと同じものを使用する。
参考書 Reference(s)	<p>『源氏物語評釈』（角川書店） 新日本古典文学大系『源氏物語』（岩波書店） 新日本古典文学全集『源氏物語』（小学館） 『源氏物語図典』（小学館） その他については、授業中、提示する。</p>
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第2演習B						
担当教員	村上 敬一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>応用日本語学（社会言語学、方言学、日本語教育学など）にかかわる以下の問題を研究する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語行動（場面・状況によることばづかい、敬語の運用） 2. 言語接触（方言と、共通語・標準語の使い分け、中間方言など） 3. 言語変化（伝統的方言の共通語化、移住によることばの変化など） 4. 言語意識（ことばづかいを支える規範意識、アイデンティティなど） 5. 言語習得（幼児の母語習得、中間言語など） 6. 属性とことば（若者語、女性語、キャンパスことばなどの集団語）
授業計画 Syllabus	<p>第1回 調査結果のまとめ方① 第2回 調査結果のまとめ方② 第3回 個人別の演習発表① 第4回 個人別の演習発表② 第5回 個人別の演習発表③ 第6回 個人別の演習発表④ 第7回 個人別の演習発表⑤ 第8回 個人別の演習発表⑥ 第9回 個人別の演習発表⑦ 第10回 個人別の演習発表⑧ 第11回 個人別の演習発表⑨ 第12回 個人別の演習発表⑩ 第13回 個人別の演習発表⑪ 第14回 個人別の演習発表⑫ 第15回 まとめ・卒論反省会</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価70%とレポート、試験30%
履修上の注意 Requirements and policy	発表者には入念な準備、参加者には活発な討論を期待する。
教科書 Textbook(s)	授業中に紹介する
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第2演習B						
担当教員	吉井 健						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	最近の日本語の用法として問題視されるものについて、どういう点が問題であるのか整理する。 さらに、正誤の判定から一旦はなれて、そういう用法が広がっている理由を考える。
授業計画 Syllabus	1) 発表課題解説と担当者割り当て 2) 個人発表 (内容未定) 3) 個人発表 (内容未定) 4) 個人発表 (内容未定) 5) 個人発表 (内容未定) 6) 個人発表 (内容未定) 7) 個人発表 (内容未定) 8) 個人発表 (内容未定) 9) 個人発表 (内容未定) 10) 個人発表 (内容未定) 11) 個人発表 (内容未定) 12) 個人発表 (内容未定) 13) 補足発表 (これまでの発表の補足) 14) 補足発表 (これまでの発表の補足) 15) まとめ
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	発表や質疑の内容60% 平常点40%
履修上の注意 Requirements and policy	無断欠席厳禁。 就職活動などやむ得ない場合も必ずその旨申し出ること。
教科書 Textbook (s)	なし。
参考書 Reference (s)	北原保雄編『問題な日本語』(大修館書店) ISBN 4-469-22168-6 その他は授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学史A						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	日本文学の歴史を、日本歴史の流れに位置づけながら学ぶ。前期は「うた」の系譜に属する文学を扱う。文字を持たなかった日本人は、中国語の文字を使って何とか日本語を残そうとした。そうまでして残したかった日本語が「うた」であった。「うた」は、五七調のリズムにのせた日本語の美しい響きと、叙情的な日本人の心情を伝えてきた。万葉集から古今・新古今の和歌に受け継がれた「うた」は、やがて連歌の世界を切り開き、俳諧の世界へ連なってゆく。五七五のわずか十七文字で世界を表現する短詩系の究極の形にいたるまでの歴史を学ぶ。
授業計画 Syllabus	第1回 日本語の歴史 第2回 万葉の歌1 第3回 万葉の歌2 第4回 王朝の歌『古今集』 第5回 王朝の歌『三代集』 第6回 王朝の歌『新古今集』 第7回 和歌の流れ 八代集とその後 第8回 はやりうたの世界(今様など) 第9回 堂上連歌と地下の連歌 第10回 連歌『水無瀬三吟』 第11回 俳諧の連歌 第12回 新たな俳諧 松永貞徳と西山宗因 第13回 松尾芭蕉 第14回 狂歌・川柳・はやり歌など 第15回 まとめと試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	平常点30% 期末試験70%
履修上の注意 Requirements and policy	出席重視。高校までで使用した日本史の資料(種類は問わないが年表を含むこと)を持参すること
教科書 Textbook(s)	『日本古典読本』秋山虔・桑名靖治・鈴木日出男著 筑摩書房 ISBN: 448091708X
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学史B						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	日本文学の歴史を、日本の歴史の流れに位置づけながら学ぶ。後期は「ものがたり」の系譜に属する文学を扱う。中国の漢字しか知らなかった時代から、語り伝えられた「ものがたり」は漢字を用いて記録された。「ひらがな」という新たな表現手段を獲得した平安時代になると「ものがたり」は女性の手によって飛躍的に拡大する。しかし武士階層の台頭とともに「ものがたり」は戦いの記録へと変わって行く。漢字と「かたかな」主体の簡潔な文体が登場し、ひらがなの「ものがたり」と交流しながら、「ものがたり」の世界を拓けて行く。やがて文芸の大衆化と共に、御伽草子や仮名草子を生み、浮世草子、読本などへつながって行く。一方で「ものがたり」は演劇の世界にも能や狂言、さらには歌舞伎や浄瑠璃などの世界を切り開いて行く。						
授業計画 Syllabus	第1回 古代の物語 『古事記』 1 第2回 古代の物語 『古事記』 2 第3回 王朝の物語 歌物語 第4回 王朝の物語 『源氏物語』 1 第5回 王朝の物語 『源氏物語』 2 第6回 仏教と物語 第7回 中世の物語 『平家物語』 第8回 中世の物語 軍記物語 第9回 中世の物語 御伽草子 第10回 近世の物語 浮世草子 第11回 近世の物語 読本・草双紙 第12回 中世の演劇 能と狂言 第13回 近世の演劇 歌舞伎 第14回 近世の演劇 浄瑠璃 第15回 まとめと試験						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	平常点30% 期末試験70%						
履修上の注意 Requirements and policy	出席重視。高校までで使用した日本史の資料（種類は問わないが年表を含むこと）を持参すること						
教科書 Textbook(s)	『日本古典読本』秋山虔・桑名靖治・鈴木日出男著 筑摩書房 ISBN: 448091708X						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	古典入門						
担当教員	片岡 利博						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	多様な古典の世界を学びつつ、高校までの勉強とはひと味違った形で、日本文化や日本文学の世界を紹介してゆく。
授業計画 Syllabus	<ul style="list-style-type: none"> 1 日本文学のジャンルと歴史区分 2 口承と漢字 3 和習漢文 4 日本語のエクリチュール 5 天皇制と宮廷サロン 6 伝承話型 7 神々と仏教 8 年中行事 9 制度と政治 10 通過儀礼 11 恋愛と結婚 12 服装と服飾 13 医療と呪術 14 命と心と身体 15 総括と試験
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	講読を交えての講義
評価方法 Evaluation	出席点50点と、レポートおよび期末試験50点
履修上の注意 Requirements and policy	
教科書 Textbook (s)	プリントによる。
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	古典入門						
担当教員	片岡 利博						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	多様な古典の世界を学びつつ、高校までの勉強とはひと味違った形で、日本文化や日本文学の世界を紹介してゆく。
授業計画 Syllabus	<ul style="list-style-type: none"> 1 日本文学のジャンルと歴史区分 2 口承と漢字 3 和習漢文 4 日本語のエクリチュール 5 天皇制と宮廷サロン 6 伝承話型 7 神々と仏教 8 年中行事 9 制度と政治 10 通過儀礼 11 恋愛と結婚 12 服装と服飾 13 医療と呪術 14 命と心と身体 15 総括と試験
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	講読を交えての講義
評価方法 Evaluation	出席点50点と、レポートおよび期末試験50点
履修上の注意 Requirements and policy	
教科書 Textbook (s)	プリントによる。
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶA／平安の文学A						
担当教員	片岡 利博						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	王朝文学の種々相 奈良時代から鎌倉時代までの、王朝貴族社会を背景にして生まれた文学作品について講義する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1 この授業に関して 2 今昔物語の説話から……平中失敗譚 3 今昔物語の説話から……貴族社会の裏面 4 今昔物語の説話から……かぐや姫の物語 5 竹取物語の構造（その1） 6 竹取物語の構造（その2） 7 竹取翁の物語とかぐや姫の物語 8 古今和歌集序文にみる和歌文学論（その1） 9 同上（その2） 10 小野小町の歌と小町説話（その1） 11 同上（その2） 12 蟬丸について 13 在原業平の歌と伊勢物語（その1） 14 同上（その2） 15 同上（その3）と試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義による
評価方法 Evaluation	期末試験による
履修上の注意 Requirements and policy	
教科書 Textbook(s)	2講目の授業時に教材（プリント）を配布する
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶB／平安の文学B						
担当教員	片岡 利博						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	王朝文学の種々相 奈良時代から鎌倉時代までの王朝貴族社会を背景に生まれた文学作品について講義する。
授業計画 Syllabus	1 源氏物語について（その1） 2 同上（その2） 3 同上（その3） 4 同上（その4） 5 源氏物語以後の物語（その1） 6 同上（その2） 7 同上（その3） 8 同上（その4） 9 枕草子について（その1） 10 同上（その2） 11 同上（その3） 12 男の日記、女の日記（その1） 13 同上（その2） 14 同上（その3） 15 まとめと試験
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	期末試験による。
履修上の注意 Requirements and policy	
教科書 Textbook(s)	プリント配布
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶC／近世の文学A						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	近世演劇研究13-1 江戸時代を代表する歌舞伎と人形浄瑠璃の歴史を考える。特に二つの芸能の交流に着目し、三百年以上の間、社会の最先端の文化の一つとして活動を継続してきた軌跡を考察する。浄瑠璃や歌舞伎という芸能が17世紀初め頃に誕生してから、さまざまな紆余曲折を経ながら江戸時代という時代の中で大衆の中に定着してゆく。本講義は、その過程について特に成立期から元禄・享保期までを中心に、主に人形浄瑠璃の盛衰を柱に検討を加える連続講義の一環である。本年度は、昨年度の宝永期の考察に引き続き、激動する正徳期に起こる新たな演劇界の動きについて考察する。前期は時代物を中心に、芸能が新たな展開を見せる時代の変化を作品を通して考察する。後期は世話物を中心に、芸能が新たな展開を見せる時代の変化を作品を通して考察する。						
授業計画 Syllabus	第1回 近世演劇史概説 歌舞伎編 第2回 近世演劇史概説 浄瑠璃編 第3回 正徳期の演劇界 実と虚の世界 第4回 百合若伝説 第5回 『百合若大臣野守鏡』の概要1 第6回 『百合若大臣野守鏡』の概要2 第7回 『百合若大臣野守鏡』の概要3 第8回 『百合若大臣野守鏡』の概要4 第9回 赤穂事件と浄瑠璃 第10回 『碁盤太平記』の概要1 第11回 『碁盤太平記』の概要2 第12回 『碁盤太平記』の概要3 第13回 『碁盤太平記』の概要4 第14回 『碁盤太平記』の概要5 第15回 まとめと筆記試験						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	平常点30% 期末試験70%						
履修上の注意 Requirements and policy	日本の古典芸能に関する予備知識は特に必要ないが、芸能や演劇（現代のものも含む）に対する関心や好奇心を持っていること。						
教科書 Textbook(s)	プリントを配布。						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶD／近世の文学B						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	近世演劇研究13-2 江戸時代を代表する歌舞伎と人形浄瑠璃の歴史を考える。特に二つの芸能の交流に着目し、三百年以上の間、社会の最先端の文化の一つとして活動を継続してきた軌跡を考察する。浄瑠璃や歌舞伎という芸能が17世紀初め頃に誕生してから、さまざまな紆余曲折を経ながら江戸時代という時代の中で大衆の中に定着してゆく。本講義は、その過程について特に成立期から元禄・享保期までを中心に、主に人形浄瑠璃の盛衰を柱に検討を加える連続講義の一環である。本年度は、昨年度の宝永期の考察に引き続き、激動の正徳期に起こる新たな演劇界の動きについて考察する。後期は時代物に続き、世話物を中心に、芸能が新たな展開を見せる時代の変化を作品を通して考察する。
授業計画 Syllabus	第1回 正徳期の浄瑠璃界 第2回 世話物の世界 第3回 世話物の展開1 『冥途の飛脚』 1 第4回 世話物の展開1 『冥途の飛脚』 2 第5回 世話物の展開1 『冥途の飛脚』 3 第6回 世話物の展開1 『冥途の飛脚』 4 第7回 世話物の展開1 『冥途の飛脚』 5 第8回 世話物の到達点 第9回 世話物の展開2 『生玉心中』 1 第10回 世話物の展開2 『生玉心中』 2 第11回 世話物の展開2 『生玉心中』 3 第12回 世話物の展開2 『生玉心中』 4 第13回 世話物の展開2 『生玉心中』 5 第14回 時代物と世話物 第15回 まとめと筆記試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	平常点30% 期末試験70%
履修上の注意 Requirements and policy	日本の古典芸能に関する予備知識は特に必要ないが、芸能や演劇（現代のものも含む）に対する関心や好奇心を持っていること。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むA						
担当教員	田中 まき						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>王朝物語の読解と研究 平安時代前期に成立した、現存最古の物語『竹取物語』を講読する。 『竹取物語』は「かぐや姫」の物語として名高いが、羽衣伝説や竹取の翁伝説を中心に、求婚難題説話や地名起源伝説などを付加して構成され、その他、漢籍、仏典との関係も注目される伝奇物語である。 また、五人の貴公子の失敗談には、貴族社会に対する風刺が込められており、興味深い。 このような事柄に注目しながら、『竹取物語』のおもしろさを探求したい。 『竹取物語』は我が国最古の物語とほいうものの、室町時代以降の写本しか伝わっていない。 そこで、本講義では流布本と異本（古本系統）の本文を比較しつつ読み進め、『竹取物語』の特質を探究する。 さらに、古典語彙、文語文法などに着目して、古文読解の能力を高めることも目標とする。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 平安時代の物語文学についての概説 第2回 『竹取物語』についての概説 第3回 『竹取物語』の諸本（本文系統）についての講義 第4回 『竹取物語』の冒頭文についての講義 第5回 五人の貴公子の求婚談についての講読 第6回 「仏の御石の鉢」についての講読 第7回 「蓬萊の玉の枝」①についての講読 第8回 「蓬萊の玉の枝」②についての講読 第9回 「火鼠の皮衣」についての講読 第10回 「龍の頸の珠」についての講読 第11回 「燕の子安貝」についての講読 第12回 「かぐや姫の昇天」についての講読 第13回 「不死の薬」と「富士の山」についての講読 第14回 まとめと試験 第15回 『竹取物語』と伝奇物語についてのまとめ</p>
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	講義と講読（受講者による担当発表）
評価方法 Evaluation	試験（70%）、担当発表の内容（20%）、平常点（10%）によって評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	各自に発表を課す。 遅刻、欠席は厳に慎むこと。
教科書 Textbook (s)	竹取物語〔訂正増補版〕 松尾聰 校注解説 笠間書院 4-305-00050-4
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むB						
担当教員	田中 まき						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>王朝物語の読解と研究 平安時代の歌物語である『大和物語』を講読する。 『大和物語』百七十三章段のうち、百四十章段あまりの前半は当代（平安時代前期）の人々の歌語りの集積であり、後半は古代の伝承を中心とした昔語りの集積である。 この授業では、それらの特徴を考えながら読み進め、さらには、それぞれの章段に現れている、恋や友情、宮廷生活や夫婦のあり方、装束や住まいなど、様々な面から平安貴族の生活の様相を探って行きたい。 さらに、古典語彙、文語文法などに着目して、古文読解の能力を高めることも目標とする。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 平安時代の物語文学の概観についての講義 第2回 『大和物語』についての講義 第3回 第一段の講義 第4回 第二・三段の講読 第5回 第四・八段の講読 第6回 第二十五・二十七段の講読 第7回 第二十九・三十段の講読 第8回 第四十一・四十二段の講読 第9回 第四十五・五十八段の講読 第10回 第七十・七十六・七十七段の講読 第11回 第九十一・九十九段の講読 第12回 第四百七段前半の講読 第13回 第四百七段後半の講読 第13回 第四百九段の講読 第14回 まとめと試験 第15回 『大和物語』と歌物語についてのまとめ</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義と講読（受講者による担当発表）						
評価方法 Evaluation	試験（70%）、担当発表の内容（20%）、平常点（10%）によって評価する。						
履修上の注意 Requirements and policy	各自に発表を課す。 遅刻、欠席は厳に慎むこと。 3分の1以上、欠席した場合は期末考査を受ける資格がないものとする。						
教科書 Textbook(s)	校注大和物語 柳田忠則編(新典社) 978-4-7879-0805-6						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むC						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>舞曲『百合若大臣』 室町時代から江戸時代に広く流布した英雄伝説。 蒙古征伐からの帰途、逆臣のために絶海の孤島に置き去りにされる百合若。これを救うことになるのは、1羽の鷹「緑丸」であった。 苦難の末に帰国して復讐をとげる物語は、中世には西日本を中心に口承伝説として広く流布。この代表的作品である幸若舞曲「百合若大臣」を読む。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 幸若舞曲について 第2回 『百合若大臣』前1 第3回 『百合若大臣』前2 第4回 『百合若大臣』前3 第5回 本地垂迹について 第6回 『百合若大臣』中1 第7回 『百合若大臣』中2 第8回 『百合若大臣』中3 第9回 『百合若大臣』中4 第10回 英雄伝承と舞曲 第11回 『百合若大臣』後1 第12回 『百合若大臣』後2 第13回 『百合若大臣』後3 第14回 『百合若大臣』後4 第15回 江戸時代の演劇へ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式。ただし一部講義形式。
評価方法 Evaluation	平常点20%、発表点30%、期末試験50%
履修上の注意 Requirements and policy	出席重視。毎時間、積極的に参加することが重要。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むD						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	『雨月物語』より「蛇性の淫」 江戸時代に作られた上田秋成の『雨月物語』より、巻四「蛇性の淫」を読む。雨宿りの軒先で出会った不思議な美女。男を虜にしたその美女の正体とは？ 名作『雨月物語』の中でも名作とされる本話をじっくりと読む。
授業計画 Syllabus	第1回 上田秋成について 第2回 「蛇性の淫」前1 第3回 「蛇性の淫」前2 第4回 「蛇性の淫」前3 第5回 浮世草子について 第6回 「蛇性の淫」中1 第7回 「蛇性の淫」中2 第8回 「蛇性の淫」中3 第9回 「蛇性の淫」中4 第10回 江戸中期の文学 第11回 「蛇性の淫」後1 第12回 「蛇性の淫」後2 第13回 「蛇性の淫」後3 第14回 「蛇性の淫」後4 第15回 江戸時代の怪異文学
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	演習形式。ただし一部講義形式。
評価方法 Evaluation	平常点20%、発表点30%、期末試験50%
履修上の注意 Requirements and policy	出席重視。毎時間、積極的に参加することが重要。
教科書 Textbook (s)	プリントを配布
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	ことばの調べ方／国語学講読B						
担当教員	尾山 慎						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	日本語日本文学を学ぶに当たって、様々な調査考察をする必要が出てくるが、手近な辞書で済まないことがたびたびある。極端な話、知りたいことばが立項されていないこともある。また、載っていたとしてもその辞書の記述がどこまで十分な情報であるといえるか、批判的にみなおす必要がある。「ことばを調べる」とは、単に情報を得るだけのことではすまない。ことばを探求することであり、重層的に知ることである。自分は日本語の何を知っているのか。何を知らないのか。そもそも何をもち「知っている」といえるのか。この授業を通じてあらためて考えて欲しい。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1、ことばを調べるとはどのようなことか 2、語彙と日本語学習・日本語教育 3、調べる手段の基礎解説（利便性とリスク） 4、辞書の歴史 5、ことばを調べる【実践①】…現代語1 6、ことばを調べる【実践②】…現代語2 7、ことばを調べる【実践③】…漢字 8、ことばを調べる【実践④】…漢字熟語 9、ことばを調べる【実践⑤】…古典語1 10、ことばを調べる【実践⑥】…古典語2 11、ことばを調べる【実践⑦】…辞書を批判する 12、ことばを調べる【実践⑧】…新語とどう向き合うか 13、研究の歴史 14、研究の現在 15、本講義の総まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	【実践】と記されている回以外は、基本的に講義形式だが、適宜意見を求める場合がある。多くは計画にあるように授業の本題でもある「ことばを調べる」ことの【実践】がある。その報告・討論に多くの時間が割かれる。その際に意見をいうこと、疑問を投げかけることをおそれないでほしい。
評価方法 Evaluation	<p>授業中の平常点40%（課題の達成度、発言内容など）</p> <p>学年末レポート60%</p> <p>出席点（減点方式。全出席して、±0）</p> <p>以上をもって総合的に判断する。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	本講義は教員からの一方通行ではない。たびたび思考の時間と討議の時間が設けられる。積極的な参加を期待する。なお、課題は各個人で取り組む場合と、グループで取り組む場合とがあるが、適宜授業中に指示する。
教科書 Textbook(s)	適宜授業中に紹介する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	漢字「調」とは原義には「全体にまんべんなく行き渡らせる」の意である。一つの情報源からだけの知識で良しとするのは、「調」ではない。「調」べるとは様々な情報をつきあわせ、思索し、その言葉の総体を知ることである。ために「右」という言葉を2種類以上の辞書で引いてみよう。そこには何と解説されているだろうか。その解説にあなたは納得できたか。そしてあなたが「右」とは何か、と他人に言葉だけで説明するとすればどうするか。こんな当たり前すぎるほど簡単な言葉でさえ、はたと悩むことになるだろう。この授業を通じて言葉に対する知の格闘を体感してほしい。

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	コミュニケーション論A／コミュニケーション学特論A						
担当教員	吉岡 美賀子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	放送におけるアナウンスメントの実践（その1） 発声練習をはじめ、発音、アクセント、滑舌など、アナウンスの基本に触れる。その後、アナウンスメントの基本となるニュース原稿を読んで、その実践に取り組む。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義説明と発声練習 2. 発声練習 3. 日本語における各音節の発音 4. ガ行鼻濁音 5. 母音の無声化 6. 短文練習 7. アクセント 8. アクセント練習 9. ニュース原稿の読み方① 10. ニュース② 11. ニュース③ 12. ニュース④ 13. ショートニュースの読み方 VTR収録のための諸注意 14. VTR収録 15. VTR視聴と講評 <p>（受講者数によって内容が前後することがあります。）</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	実技40%、ミニレポート(授業の中で提出) 60%、欠席は減点。遅刻は3回で欠席1回と同等扱い。
履修上の注意 Requirements and policy	3分の2以上の出席と課題実技（VTR収録）がなければ、単位は認めない。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	コミュニケーション論B／コミュニケーション学特論B						
担当教員	吉岡 美賀子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	放送におけるアナウンスメントの実践（その2） 発声練習をはじめ、発音、アクセント、滑舌など、アナウンスの基本に触れる。その後、アナウンスメントの応用となる、コマーシャル、中継リポートなどの実践に取り組む。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義内容説明 発声練習 2 発声練習 発音講義 3 アクセント講義 4 CM読み① 5 CM読み② 6 CM録音 7 CM振り返り 8 リポート 9 リポート練習 10 リポート実践／振り返り 11 朗読視聴 12 朗読の原稿の作り方 13 フリートーク 14 朗読実践 15 読み聞かせ <p>（受講者数によって内容が前後することがあります。）</p> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リポート 題材は自由だが、実際に見てきた行事、もしくは場所であること。ラジオ中継という設定で、1分程度のリポートをする。（原稿は自分で作成する） ・朗読 題材は自由。時間は2分程度。コピー、または手書きで原稿を作り、読みやすいように印や、読むときの工夫を書き込んでから、一部コピーしたものを発表時に提出すること。
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	実技40%、ミニレポート(授業の中で提出) 60%、欠席は減点。遅刻は3回で欠席1回と同等扱い。
履修上の注意 Requirements and policy	3分の2以上の出席と課題実技(朗読とリポート) がなければ、単位は認めない。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	社会言語学演習A						
担当教員	村上 敬一						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【目的】 地域方言調査の企画・立案・実施</p> <p>【概要】 社会言語学は、社会とのかかわりにおいて言語をとらえようとする研究分野である。この演習では、西日本における方言の動態を調査し、その結果をまとめることで、地域方言研究のあり方を具体的かつ体系的に習得することを目指す。前期は、方言調査の実施にあたって、ことばの調査に関する企画・立案のしかたを学ぶ。夏休み中（9月上・中旬）に、方言調査を実施する。調査研究を通して、人間同士の円滑なコミュニケーションとは何か、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションとは何かについてもいっしょに考えてみたい。昨年は熊本県と福岡県で調査を実施した。今年度は、中国地方か四国地方を考えている。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 方言を調査するということ</p> <p>第2回 先行調査・研究の検討①</p> <p>第3回 先行調査・研究の検討②</p> <p>第4回 先行調査・研究の検討③</p> <p>第5回 先行調査・研究の検討④</p> <p>第6回 先行調査・研究の検討⑤</p> <p>第7回 先行調査・研究の検討⑥</p> <p>第8回 先行調査・研究の検討⑦</p> <p>第9回 先行調査・研究の検討⑧</p> <p>第10回 夏休み調査の準備・調査票の作成①</p> <p>第11回 夏休み調査の準備・調査票の作成②</p> <p>第12回 夏休み調査の準備・調査票の作成③</p> <p>第13回 夏休み調査の準備・調査票の作成④</p> <p>第14回 模擬調査</p> <p>第15回 夏休み調査に向けて</p> <p>※ 9月初旬に方言調査を行なう。詳細は別途指示する。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義、及び演習形式
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%とレポート、試験40%
履修上の注意 Requirements and policy	2泊の方言調査を実施する。調査に参加できない者、調査結果のまとめにかかわる共同作業に責任を負わない者は、履修を控えたほうがよい。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。
参考書 Reference(s)	『社会言語学の展望』 真田信治（編）（くろしお出版） 『応用社会言語学を学ぶ人のために』 ダニエルロング・中井精一・宮治弘明（編）（世界思想社）
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	社会言語学演習B						
担当教員	村上 敬一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【目的】方言調査結果の集計と分析 【概要】社会言語学は、社会とのかかわりにおいて言語をとらえようとする研究分野である。この演習では、西日本における方言の動態を調査し、その結果をまとめることで、地域方言研究のあり方を具体的かつ体系的に習得することを目指す。後期は、夏休みに実施する方言調査結果の集計と分析の方法について、体系的に学ぶ。具体的には、エクセルを使ったデータ集計とグラフ作成、パワーポイントを使ったプレゼンテーション、ワードを使った報告書の作成を行う。</p> <p>※ 9月初旬に方言調査を行なう。詳細は別途指示する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 調査票の回収 第2回 調査結果の集計① 第3回 調査結果の集計② 第4回 調査結果の集計③ 第5回 調査結果の集計④ 第6回 調査結果の集計⑤ 第7回 調査結果の集計⑥ 第8回 調査結果の分析① 第9回 調査結果の分析② 第10回 調査結果の分析③ 第11回 調査結果の分析④ 第12回 調査結果の分析⑤ 第13回 調査結果の発表① 第14回 調査結果の発表② 第15回 まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%とレポート、試験40%
履修上の注意 Requirements and policy	調査の集計には、共同作業を伴う。共同作業に責任を負わない者の履修は、控えた方がよい。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。
参考書 Reference(s)	『社会言語学の展望』真田信治（編）（くろしお出版） 『応用社会言語学を学ぶ人のために』 ダニエルロング・中井精一・宮治弘明（編）（世界思想社）
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	書道講義A／書道概論						
担当教員	花田 尊文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>書論 本講では書論を中心に解説、考察したい。書論とは何か、どのような書論があるのか、書芸術論の古典的名著である孫過庭の「書譜」を講読、その読解に重点をおいて学習したい。</p> <p>到達目標 書論について理解（孫過庭『書譜』の論旨について学習、書の本質について理解を深める）。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：諸注意、伝達事項、シラバス配布と関連参考文献の紹介、授業の進め方の説明。書論について略説。 第2回：中国の書論について。 第3回：「書譜」講読。（第一篇 四賢の優劣論） 第4回：「書譜」講読。（第二篇 書の本質と価値、芸術論） 第5回：「書譜」講読。（第二篇 書の本質と価値、書体論・使転形質） 第6回：「書譜」講読。（第二篇 五合五乖） 第7回：「書譜」講読。（第三篇 六朝以来の書論） 第8回：「書譜」講読。（第四篇 執使用転の説） 第9回：「書譜」講読。（第四篇 王羲之の書の価値） 第10回：「書譜」講読。（第五篇 書表現の基盤と段階、意前筆後、三時三変） 第11回：「書譜」講読。（第五篇 書表現の基盤と段階、淹留勁疾・運筆論） 第12回：「書譜」講読。（第五篇 書表現の基盤と段階、様態九例） 第13回：「書譜」講読。（第五篇 書の理想的境地） 第14回：「書譜」講読。（第六篇 書の妙境と批判、跋語） 第15回：総括、質疑応答。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	レポートの提出50%。平常点50%。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>要、予習。 10回以上の出席必要、不足の場合評価対象外となる。 授業に際してテキスト・プリントを忘れずに持参すること。 携帯電話の使用厳禁、教室内では電源を切りしなうこと。私語禁止。他人の迷惑になる行為は慎むこと。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>書名/中国法書ガイド 38『書譜』 著訳編註名/二玄社編 出版社/二玄社 ISBN/4544021383 必要に応じプリントを配布する。</p>
参考書 Reference(s)	<p>「書譜」書論双書（田邊萬平著）日本習字普及協会 通解・孫過庭「書譜」（藤原楚水著）清雅堂 中国書論大系・第2巻「唐I」（P93～P177、書譜）二玄社</p>
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	書道講義B／書道特殊講義						
担当教員	花田 尊文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>書の鑑賞</p> <p>本講では書の鑑賞について解説、考察する。書の鑑賞とは何か、書は身近なものでありながらその鑑賞が絵画や音楽に比べて難しいと思われるのはなぜか。実は、そこには書論との深い関わりがある。授業では実際に書作品の鑑賞を盛り込んで学習し、その方法について理解を深め、感性や理性を高めたい。</p> <p>到達目標</p> <p>鑑賞の段階や方法を理解したうえで鑑賞力の向上を目指す（自らの眼で観、頭で考え、心で感じとる）。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：諸注意、伝達事項、シラバス配布とその説明。工具書や関連参考文献の紹介、授業の進め方の説明。</p> <p>第2回：「書の鑑賞」について解説（1回目）。</p> <p>第3回：「書の鑑賞」について解説（2回目）。</p> <p>第4回：鑑賞演習（楷書1回目）。</p> <p>第5回：鑑賞演習（楷書2回目）。</p> <p>第6回：鑑賞演習（楷書3回目）、レポート提出。</p> <p>第7回：鑑賞演習（行書・草書1回目）。</p> <p>第8回：鑑賞演習（行書・草書2回目）。</p> <p>第9回：鑑賞演習（行書・草書3回目）、レポート提出。</p> <p>第10回：鑑賞演習（漢字仮名交じり文1回目）。</p> <p>第11回：鑑賞演習（漢字仮名交じり文2回目）。</p> <p>第12回：鑑賞演習（漢字仮名交じり文3回目）、レポート提出。</p> <p>第13回：鑑賞演習（隸書・篆書1回目）。</p> <p>第14回：鑑賞演習（隸書・篆書2回目）。</p> <p>第15回：総括。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義、鑑賞演習。
評価方法 Evaluation	レポート40%。期末の提出課題20%。平常点40%。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>書道講義Aとの共修を望む。また、書道史（A、B）を既修していることが望ましい。</p> <p>10回以上の出席必要、不足の場合評価対象外となる。</p> <p>携帯電話の使用厳禁、教室内では電源を切りしなうこと。私語禁止。他人の迷惑になる行為は慎むこと。</p>
教科書 Textbook(s)	なし。必要に応じ資料、プリント配布。
参考書 Reference(s)	<p>書名/書道の古典(全三冊)</p> <p>著訳編註名/大東文化大学書道研究所</p> <p>出版社/二玄社</p> <p>ISBN/4544014336</p>
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	書道史A／書道史I						
担当教員	花田 尊文						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>中国の書道史 中国史の時代区分を追いながら書の歴史の変遷を講ずる、併せて政治・経済・思想や文化の事情を知り、歴史上の人物像についても解説しより深い理解を目指したい。テキストに沿って進行、より精度の高い文字資料の映像や実物資料の提示と解説も行う。</p> <p>到達目標 漢字の発生からその変遷進化、書体の完成、書芸術の発生展開について中国の書道史の基本的事項について理解習得する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：諸注意、伝達事項、シラバス配布とその説明、工具書や関連参考文献の紹介。中国書道の導入として文字の始まり、つまり漢字創成の伝説と実際について解説。</p> <p>第2回：殷、西周。（甲骨文、金文）</p> <p>第3回：西周、東周。（金文、列国体、石鼓文、簡牘書）</p> <p>第4回：秦、前漢。（篆書、簡牘書、帛書、隸書）</p> <p>第5回：後漢。（八分隸、漢碑）</p> <p>第6回：三国、西晋。（残紙、楷書の定立、書人の登場）</p> <p>第7回：東晋。（王羲之・王献之、書芸術の出現）</p> <p>第8回：南北朝。（南朝＝羲之の継承、北朝＝北碑、龍門二十品など）</p> <p>第9回：隋、唐。（墓誌銘、楷書の完成、初唐の三大家）</p> <p>第10回：唐。（中唐・晩唐の書、顔真卿）</p> <p>第11回：宋。（淳化閣帖、北宋の四大家、南宋・金の書）</p> <p>第12回：元、明。（趙孟頫・復古主義、元末明初の書人）</p> <p>第13回：明。（文人主義、中期の書道興隆、帖学、董其昌、明末ロマン主義）</p> <p>第14回：清。（明末清初の書、帖学派・碑学派）</p> <p>第15回：清。（揚州八怪、金石学、篆隸の書、篆刻）</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	レポートの提出50%。平常点50%。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>10回以上の出席必要、不足の場合評価対象外となる。</p> <p>授業に際してテキスト・プリントを忘れずに持参すること。</p> <p>携帯電話の使用厳禁、教室内では電源を切りしなうこと。私語禁止。他人の迷惑になる行為は慎むこと。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>書名/中国書道史年表 著訳編註名/玉村霽山 出版社/二玄社 ISBN/4544012414 必要に応じプリントを配布する。</p>
参考書 Reference(s)	<p>書名/書道の古典/全三巻 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336</p>
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	書道史B／書道史II						
担当教員	室之園 裕美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：今日、当たり前のように使っている漢字や仮名であるが、実は世界に誇る文化遺産である。漢字や仮名について知ることは日本の文化を知ることであり、それらの起源から知ることによって私たちの祖先たちの想像力の素晴らしさや日本人としての誇りを感じられるようになることがテーマである。</p> <p>到達目標：日本の書の歴史と各時代ごとの書の特徴についての知識を習得させる。</p> <p>授業の概要：日本書道史を時代区分し、各時代の時代背景・文化・文学をふまえた上で、その時代の書の特徴を講義する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：オリエンテーション（授業内容の説明や持ち物や注意事項の伝達）</p> <p>第2回：日本書道史概要解説、年表チェック。</p> <p>第3回：聖徳太子以前（漢字の伝来 文献記録と実物文字資料）。</p> <p>第4回：これより聖徳太子以後 大和時代（模倣期）。</p> <p>第5回：奈良時代（前項の続き、天平文化）。</p> <p>第6回：平安時代初期（過渡期 三筆）。</p> <p>第7回：平安時代中期～後期（完成期 三蹟 古筆名品）。</p> <p>第8回：平安時代中期～後期（前回の続き 古今集との関係）。</p> <p>第9回：仮名の変遷についてのまとめ。</p> <p>第10回：平安時代末～鎌倉時代（継承期 忠道、俊成、西行、後鳥羽天皇、定家、平家納経）。</p> <p>第11回：室町時代（衰微期 禅林墨跡）。</p> <p>第12回：安土桃山時代～江戸初期（復興期 寛永の三筆）。</p> <p>第13回：江戸時代～明治初期（普及期 御家流 儒学者、文人の書）。</p> <p>第14回：明治時代以後（楊守敬来日、北碑の書 難波津会、古筆の復興 新時代の書家達）。</p> <p>第15回：定期試験。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と実技による。
評価方法 Evaluation	平常点20%、提出課題30%、定期テスト50%による総合評価。
履修上の注意 Requirements and policy	全授業数の3分の1以上の欠席で、不可。また、遅刻3回で1欠席とする。 くれぐれも携帯電話のマナーを厳守すること。常識と節度のある態度で授業に臨むこと。
教科書 Textbook(s)	「日本書道史年表」 名児耶明編 二玄社刊 定価¥1470 ISBN4-544-01242-2
参考書 Reference(s)	必要に応じプリント配布
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	書道実技（仮名A）						
担当教員	釣 年子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	仮名入門—基本編 仮名は日本で生まれ育ち、平安王朝の美を代表するものの一つです。現代でもひらがながきれいに書けるだけで文字は随分印象が良くなります。その雅な仮名の書き方の基礎を学びます。小筆（面相）を使用します。練習する仮名の種類—ひらがな、変体仮名、カタカナ
授業計画 Syllabus	1) ガイダンス—仮名とは —仮名の歴史 2) 姿勢・執筆法・基本練習 「いろは」単体の練習 1—「いろはにほへとちりぬるを」 3) 2—「わかよたれそつねならむう」 4) 3—「為のおくやまけふこえてあ」 5) 4—「さきゆめみしえひもせず」 6) 5—「いろは」全文 「とりなく・・・」仮名字源 7) 比較書写—実用の仮名とは 8) 変体仮名練習—1 9) 変体仮名練習—2 10) 仮名連綿練習—1 11) 仮名連綿練習—2 12) 仮名連綿練習—3 —実用日常語の練習 13) 仮名連綿練習—4 —実用日常語 年賀状 お礼状など 14) 俳句作品練習 15) 和歌作品練習
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	実技
評価方法 Evaluation	出席、提出作品、授業への取り組みを評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	書道用具を忘れたものは、授業を受けたことになりません。小筆（面相）、鉛筆Bを用意してください。
教科書 Textbook(s)	手本 プリントを配布します。授業中に紹介します。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	書道実技（仮名B）						
担当教員	釣 年子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	仮名一応用編 書道実技（仮名A）基礎の応用です。さまざまな書式を試みます。俳句、和歌の散らし書き構成法を学び、短冊、色紙、扇面などに挑戦します。美しい仮名の加工紙（料紙）も作ってみましょう。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1) 散らし書き一練習1「いろは」単体・連綿の復習 2) 散らし書き一練習2「和歌を書く」一部分練習 3) 散らし書き一練習3「和歌を書く」一構成を考える 4) 料紙を作ろう 5) 色紙に書く一散らし書きの清書「和歌を書く」一墨量、濃淡を生かす 6) 色紙に書く一散らし書きの清書一料紙に書く 7) 短冊に書く一1一俳句または和歌を作ろう 8) 短冊に書く一2一短冊に書く形式を学ぶ 9) 短冊に書く一3一俳句または和歌の清書 10) 年賀状を書こう 11) 料紙の年賀状を作ろう 12) 料紙の年賀状を書こう 13) 扇面一1一扇面の様々な種類を知ろう 14) 扇面一2一扇面に書く形式を学ぶ 15) 扇面一3一扇面の清書
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	実技演習
評価方法 Evaluation	出席、提出作品、授業への取り組みを評価する
履修上の注意 Requirements and policy	「書道実技（仮名A）」履修済みの者に限る。 書道用具を忘れたら、授業を受けられません。小筆（面相）を用意のこと。
教科書 Textbook(s)	手本 プリントを配布します。授業中に紹介します
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	色紙・短冊・扇面など実習材料費として1000円必要です

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	書道実技（行書）						
担当教員	室之園 裕美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>行書の基本的な知識と技法を習得する。また、古典作品の鑑賞の仕方や臨書が出来るようになる。</p> <p>行書を実技面・理論面の両面から理解できるよう、実技と講義で展開する。 実技・講義ともに行書の基本的なことから、芸術としての行書まで幅広く見ていくことにする。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1、硬筆による行書の基礎を習得する（行書の用筆法を習得し、行書の特徴を理解する。） ～点画の曲線化、点画の連続、点画の変化、点画の省略について～ 2、硬筆による行書の基礎を習得する（行書の用筆法を習得し、行書の特徴を理解する。） ～点画の方向の変化、点画の長短の変化について～ 3、硬筆による行書の基礎を習得する（行書の用筆法を習得し、行書の特徴を理解する。） ～筆順の変化、外形の変化について～ 4、毛筆による行書の基礎を習得する～点画の曲線化、連続、変化、省略について～ 5、毛筆による行書の基礎を習得する～点画の方向の変化、長短の変化について～ 6、毛筆による行書の基礎を習得する～筆順の変化、外形の変化について～ 7、王羲之『蘭亭序』について・古典作品の鑑賞の仕方について・臨書について／王羲之『蘭亭序』より4文字臨書 8、半紙作品のまとめ方について／王羲之『蘭亭序』より4文字臨書 9、半切作品のまとめ方について／王羲之『蘭亭序』より4文字臨書 10、王羲之のその他の作品について／王羲之『蘭亭序』より半切に14文字臨書 11、王羲之以外の書家（中国）について、課題について／王羲之『蘭亭序』より半切に14文字臨書 12、王羲之以外の書家（日本）について／課題制作に向けての練習 13、課題作品制作①（半切2分の1） 14、課題作品制作②（半紙） 15、課題作品制作③（半切）、作品・レポート提出
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と実技による。
評価方法 Evaluation	平常点20%、課題30%、作品・レポート50%
履修上の注意 Requirements and policy	<p>書道の用意（筆、半紙、墨汁、新聞紙等）は、講義第4回目から毎時間必ず持参すること。</p> <p>半紙は多めに持って来ること。</p> <p>総授業数の3分の1以上の欠席で不可となる。遅刻は3回で1欠席とする。</p> <p>携帯電話のマナーは厳守。</p>
教科書 Textbook(s)	蘭亭叙〈五種〉[東晋・王羲之／行書]二玄社
参考書 Reference(s)	必要に応じてプリントを配布します。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	書道実技（硬筆）						
担当教員	室之園 裕美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>硬筆での文字を正しく丁寧に、用途に応じて書けるように、そのポイントを習得し、集中力を身につける。また書くだけではなく草書体や書写体、旧字体が読めるようになる。</p> <p>実技演習中心。解説のための講義を行う。硬筆には、普段書く字、実用書、作品と用途によって様々な表現方法がある。また扱う書体も楷書、行書、草書、ひらがな、仮名がある。そのためそれぞれの特徴を知り、基本の書き方を学び、用途に合わせて実際読み書きできるように練習する。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1、オリエンテーション（授業内容の説明や持ち物や注意事項の伝達） 鉛筆の持ち方と書くときの姿勢などの確認。自分の名前を各書体で書く。 2、ひらがなの成立と書き方について。ひらがなの字源を知る/楷書体に合うひらがなと行書体に合うひらがなの練習。 3、楷書体について：字形の整え方について/楷書体の基本用筆の練習（基礎編） 4、楷書体について：縦書きの文章の書き方について/楷書体の基本用筆の練習（応用編） 5、楷書体について：横書きの文章の書き方について/楷書体についてのまとめ 6、行書体について：行書体の基本用筆の練習（基礎編） 7、漢字の部分の名称について、常用漢字の筆順について/行書体の基本用筆の練習（応用編） 8、草書体について：草書体を読み書きする/行書体についてのまとめ 9、実用書の書き方について：はがきの表裏の書き方について 10、実用書の書き方について：手紙文の書き方について（文章、用語、書き出し、結びの言葉など） 11、実用書の書き方について：封筒の表裏の書き方について、掲示文の書き方について 12、筆ペンによる実用書の練習 13、筆ペンによる作品制作（練習） 14、筆ペンによる作品制作（清書） 15、まとめとテスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と実技による。
評価方法 Evaluation	平常点20%、課題30%、試験50%
履修上の注意 Requirements and policy	<p>3分の1以上の欠席で受講不可。遅刻3回で1欠席。</p> <p>くれぐれも携帯電話のマナーを守ること。</p> <p>初回から筆記用具が必要です。</p> <p>筆ペンやマジックが途中から必要になります。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>「ペン習字の基本」 修文館出版株式会社</p> <p>「ペン習字ノート」（「ペン習字の基本」準拠） 修文館出版株式会社</p>
参考書 Reference(s)	必要に応じてプリント配布。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	書道実技（硬筆）						
担当教員	室之園 裕美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>硬筆での文字を正しく丁寧に、用途に応じて書けるように、そのポイントを習得し、集中力を身につける。また書くだけでなく草書体や書写体、旧字体が読めるようになる。</p> <p>実技演習中心。解説のための講義を行う。硬筆には、普段書く字、実用書、作品と用途によって様々な表現方法がある。また扱う書体も楷書、行書、草書、ひらがな、仮名がある。そのためそれぞれの特徴を知り、基本の書き方を学び、用途に合わせて実際読み書きできるように練習する。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1、オリエンテーション（授業内容の説明や持ち物や注意事項の伝達）、鉛筆の持ち方と書くときの姿勢などの確認。自分の名前を各書体で書く。 2、ひらがなの成立と書き方について。ひらがなの字源を知る/楷書体に合うひらがなと行書体に合うひらがなの練習。 3、楷書体について：字形の整え方について/楷書体の基本用筆の練習（基礎編） 4、楷書体について：縦書きの文章の書き方について/楷書体の基本用筆の練習（応用編） 5、楷書体について：横書きの文章の書き方について/楷書体についてのまとめ 6、行書体について：行書体の基本用筆の練習（基礎編） 7、漢字の部分の名称について、常用漢字の筆順について/行書体の基本用筆の練習（応用編） 8、草書体について：草書体を読み書きする/行書体についてのまとめ 9、実用書の書き方について：はがきの表裏の書き方について 10、実用書の書き方について：手紙文の書き方について（文章、用語、書き出し、結びの言葉など） 11、実用書の書き方について：封筒の表裏の書き方について、掲示文の書き方について 12、筆ペンによる実用書の練習 13、筆ペンによる作品制作（練習） 14、筆ペンによる作品制作（清書） 15、まとめとテスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と実技による。
評価方法 Evaluation	平常点20%、課題30%、試験50%
履修上の注意 Requirements and policy	<p>3分の1以上の欠席で受講不可。遅刻3回で1欠席。</p> <p>くれぐれも携帯電話のマナーを守ること。</p> <p>初回から筆記用具が必要。</p> <p>筆ペンやマジックが途中から必要になります。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>「ペン習字の基本」 修文館出版株式会社</p> <p>「ペン習字ノート」（「ペン習字の基本」準拠） 修文館出版株式会社</p>
参考書 Reference(s)	必要に応じてプリント配布。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	書道実技（作品制作）						
担当教員	花田 尊文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	自由制作 これまでの学習、経験を踏まえて、書作品を制作する。個人〃〃に対して必要な助言、指導を実施、完成へ導く。 到達目標 自らの着想にもとづき、字句、書体、書風、形式を考慮計画し実行する。手本によらず自力で制作するプロセスを経験学習する。
授業計画 Syllabus	第1回：自由制作とその計画書作製について説明。様々な書の古典、その制作への応用について解説。 自由制作草稿作成準備指導。 第2回：自由制作準備。各自、参考古典、書跡の選択準備。 第3回：参考古典、書跡の選択決定。その臨書演習に入る。（半紙） 第4回：同前臨書演習（二回目）。 第5回：同前臨書演習（三回目）。 第6回：自由制作草稿確認、指導助言。 第7回：自由制作着手（一回目）。 第8回：自由制作演習（二回目）。 第9回：自由制作演習（三回目）。 第10回：中間下見、指導助言。 第11回：自由制作演習（四回目） 第12回：自由制作演習（五回目）。 第13回：自由制作演習（六回目）。 第14回：下見、講評。清書に向け指導助言。 第15回：自由制作演習（七回目、清書）、完成予定。
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習、指導解説。
評価方法 Evaluation	作品の提出60%。平常点40%。
履修上の注意 Requirements and policy	自主的に計画性をもって臨むこと。 10回以上の出席必要、不足の場合評価対象外となる。 携帯電話の使用厳禁、教室内では電源を切りしなうこと。私語禁止。他人の迷惑になる行為は慎むこと。
教科書 Textbook(s)	なし。
参考書 Reference(s)	各自の選択による。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	書道実技（草書）						
担当教員	花田 尊文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>書法基礎（草書） 草書の基礎的書法の習得と理解を目指し、「書譜」の臨書演習を中心に講義と解説も織りまぜて学習する。</p> <p>到達目標 草書書法基礎（旋回、ジグザグ、振り、当り運動 単体、連綿草）。草書体字形認識力の向上。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：諸注意、伝達事項、シラバス配布とその説明、関連参考文献の紹介、演習に必要な用具用材についての確認と予告。書法基礎（執筆法、腕法、姿勢、運筆）について解説。</p> <p>第2回：草書とは何か？ その発生と成立の過程について解説。 臨書について解説。</p> <p>第3回：書譜について解説。 運筆トレーニング後、「書譜」の臨書演習に入る。（半紙）</p> <p>第4回：「書譜」臨書演習（二回目）。</p> <p>第5回：「書譜」臨書演習（二回目）。</p> <p>第6回：VTRによりこれまでの総括と今後への展望。草書の字形を覚える必要性について再確認。 「書譜」臨書演習（三回目）。</p> <p>第7回：草書字形一覧表配布（合理的に字形を覚える方法）解説。</p> <p>第8回：「書譜」臨書演習（四回目）。</p> <p>第9回：「書譜」臨書演習（五回目）。</p> <p>第10回：「書譜」臨書演習（六回目）。</p> <p>第11回：「書譜」臨書演習（七回目）、提出。同条幅臨書について予告。</p> <p>第12回：「書譜」条幅臨書演習（一回目）。</p> <p>第13回：「書譜」条幅臨書演習（二回目）。</p> <p>第14回：「書譜」条幅臨書演習（三回目）。</p> <p>第15回：「書譜」条幅臨書演習（四回目）、提出。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	臨書演習中心。講義、解説も織りまぜる。
評価方法 Evaluation	作品、レポートの提出50%。平常点50%。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>書法の基礎と楷書A・B、又は書道実技（行書）を既修していること。</p> <p>10回以上の出席必要、不足の場合評価対象外となる。</p> <p>教科書、半紙、書道用具等の忘れ物をしないこと。</p> <p>携帯電話の使用厳禁、教室内では電源を切りしなうこと。私語禁止。他人の迷惑になる行為は慎むこと。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>書名/書譜(中国法書選No. 38) 著訳編註名/孫過庭 出版社/二玄社 ISBN/4544005388 必要に応じプリントを配布する。</p>
参考書 Reference(s)	<p>書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336</p>
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書A						
担当教員	釣 年子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	楷書は現代の標準書体です。一点一画をおろそかにしない書き方は文字の機能性を高めるのみならず、構築的な造形美も有しています。書体変遷の歴史上最後に完成した書体です。ここでは「臨書」という学習法を通して「楷書の極則」と称される九成宮醜泉銘の書法を習得するとともに書風・書美を追求します。
授業計画 Syllabus	<p>① 実技授業の心構え：シラバス配布、学習法の説明、教科書、関連参考文献の紹介、演習に必要な用具用材の説明、諸注意、伝達事項と予告</p> <p>②楷書書法の基礎（執筆法、腕法、姿勢、運筆、三過折、字形のまとめ方）について解説</p> <p>③楷書の基礎：演習1</p> <p>④ 演習2 提出</p> <p>⑤楷書とは？完成までの歴史、臨書について、九成宮醜泉銘について解説</p> <p>⑥ 臨書演習（2字から6字へ順次）</p> <p>⑦ 臨書演習（前回の続き）</p> <p>⑧ 臨書演習（前回の続き）</p> <p>⑨ 臨書演習（これまでの総括と再確認）</p> <p>⑩ 臨書演習 提出、九成宮醜泉銘条幅臨書について予告</p> <p>⑪九成宮醜泉銘条幅臨書演習</p> <p>⑫ 条幅臨書演習（前回の続き）</p> <p>⑬ 条幅臨書演習（前回の続き）</p> <p>⑭ 条幅臨書演習（清書）</p> <p>⑮ 予備日</p> <p>参考書紹介 中国法書選・法書ガイド（二玄社） 書跡名品叢刊（二玄社） 書道の古典/全三巻（二玄社） 書道全集・中国書道全集（平凡社） 書道芸術（中央公論社）</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	臨書演習中心、講義解説、
評価方法 Evaluation	作品の提出、平生点（出席、授業態度）
履修上の注意 Requirements and policy	「楷書A・B」を通しての選択を望む。出席3分の2以上必要。実技の授業として決して教科書・半紙・書道用具などの忘れ物をしないこと。書くことに専念し、教室内では携帯電話の使用厳禁、私語禁止、他人の迷惑になる行為は慎むこと。
教科書 Textbook(s)	授業に際して忘れずに持参すること。必要に応じプリントを配布する。 著名/九成宮醜泉銘（中国法書選No. 31） 著訳編註名/欧陽詢 出版社/二玄社
参考書 Reference(s)	必要な授業に際して忘れずに持参すること 本書は後期で教科書として使用するので必ず購入のこと 著名/書道の古典（全三冊） 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書A						
担当教員	花田 尊文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>書道の基礎知識、書法基礎（楷書）</p> <p>書写、書道についての一般的総合的な基本的教養について解説する。書写、書道教育においても日常生活においても正書体である楷書の重要性は論を待たない。これに鑑み楷書古典名跡の臨書演習を中心に講義と解説も織りまぜて楷書書法の習得をめざして学習する。まず、毛筆の扱いに慣れるのが第一段階である。その為に執筆法、腕法、姿勢などの解説を理解した上で実践する。簡単な字例から次第に難易度を上げ習熟に導く。楷書書法の最要点である三過折の習得、字形の観察力と書美の鑑賞力の向上を目指しての臨書に取り組む。</p> <p>まず、半紙で2字、4字、6字書と書く字数を増やししながら単に一字一字に注目するだけではなく章法にも配慮するよう指導する。</p> <p>到達目標</p> <p>書写、書道の基本的知識、および文字・字体・書体・書風、表現について理解と習得。楷書の書美の理解と表現。楷書書法の基本技法の習得。筆遣いの要点、字形のとり方、章法（文字の大きさ、配字、配列など）について理解習得。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：演習に必要な用具用材についての確認と書写、書道のための参考文献の紹介。書写、書道の基本的知識、および文字・字体・書体・書風、表現について略説。</p> <p>第2回：書写の基礎（執筆法、腕法、姿勢、運筆、三過折、刀法、字形のまとめ方）について解説。</p> <p>第3回：書写演習（簡単な字例から）。</p> <p>第4回：書写演習（前回の続き）、清書提出。</p> <p>第5回：楷書の歴史と楷書古典名跡（「孔子廟堂碑」「九成宮醴泉銘」など）について解説。</p> <p>第6回：臨書演習（主として唐楷 半紙2字書）。</p> <p>第7回：臨書演習（半紙2、4字書）。</p> <p>第8回：臨書演習（半紙4、6字書）。</p> <p>第9回：臨書演習（半紙6字書）。VTRによりこれまでの総括と再確認。</p> <p>第10回：臨書演習、清書提出。</p> <p>第11回：臨書演習（主として北碑 半紙2字書）。</p> <p>第12回：臨書演習（半紙4字書）。</p> <p>第13回：臨書演習（半紙6字書）。</p> <p>第14回：臨書演習、清書提出。</p> <p>第15回：書の定義、書道教育、書の鑑賞について講義。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	実技演習中心、講義解説も織りまぜる。
評価方法 Evaluation	作品、レポートの提出50%。平常点50%。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>「楷書A・B」と通しての選択を望む。</p> <p>10回以上の出席必要、不足の場合評価対象外となる。</p> <p>教科書、書道用具等の忘れ物をしないこと。</p> <p>携帯電話の使用厳禁、教室内では電源を切りしなうこと。私語禁止。他人の迷惑になる行為は慎むこと。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>書名/九成宮醴泉銘(中国法書選No. 31)</p> <p>著訳編註名/欧陽詢</p> <p>出版社/二玄社</p> <p>ISBN/4544005310</p> <p>必要に応じプリントを配布する。</p>
参考書 Reference(s)	<p>書名/書道の古典(全三冊)</p> <p>著訳編註名/大東文化大学書道研究所</p> <p>出版社/二玄社</p> <p>ISBN/4544014336</p> <p>教科書としても使用するので必ず購入すること。</p> <p>必要な授業に際して忘れずに持参すること。</p>

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書B						
担当教員	花田 尊文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「書法の基礎と楷書A」を受け多様な楷書の書美と書法を学習。条幅作品。 「書法の基礎と楷書A」で未習の楷書古典の臨書演習を中心に講義と解説も織りまぜて学習する。次に、半紙書きの経験を元に条幅（半切）書きの演習に取り組む。楷書による半切臨書作品の完成を目指す。</p> <p>到達目標 臨書の意義と効用について理解。楷書の書美、その諸相（時代的様式、作者の個性）について理解、書法についても習得。小楷演習（三過折、字形、章法）。条幅作品揮毫。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：「書法の基礎と楷書A」で未習の唐代の楷書古典（褚遂良、顔真卿など）について略説。臨書演習に入る。</p> <p>第2回：臨書演習（褚遂良）。</p> <p>第3回：臨書演習（褚遂良、顔真卿）。</p> <p>第4回：臨書演習（顔真卿）、提出。</p> <p>第5回：楷書の特徴別の種類について解説。更に未習の古典について臨書演習（魏晉小楷、楽毅論）。</p> <p>第6回：臨書演習（魏晉小楷）。</p> <p>第7回：臨書演習（楽毅論）。</p> <p>第8回：臨書演習（魏晉小楷、楽毅論）、提出。</p> <p>第9回：楷書書法の応用と展開。小楷演習（美人董氏墓誌）まず書いてみる。</p> <p>第10回：臨書演習（一字々々の特徴を詳細に原本と比較検討する）。</p> <p>第11回：臨書演習（文字の大きさ、字間行間に注意する）、提出。条幅臨書について予告、解説。</p> <p>第12回：条幅臨書演習（各自選択範囲の手本配布、まず書いてみる）</p> <p>第13回：条幅臨書演習（一字々々の特徴を詳細に原本と比較検討する）</p> <p>第14回：条幅臨書演習（文字の大きさ、字間行間にも注意する）</p> <p>第15回：条幅臨書演習（止め、ハネ、払い、線の太細など細部の表現にも配慮する）、清書提出。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	実技演習中心。講義、解説も織りまぜる。
評価方法 Evaluation	作品、レポートの提出50%。平常点50%。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>「書法の基礎と楷書A」履修済みの者に限る。 「楷書A・B」と通しての選択を望む。 10回以上の出席必要、不足の場合評価対象外となる。 教科書、書道用具等の忘れ物をしないこと。 携帯電話の使用厳禁、教室内では電源を切りしなうこと。私語禁止。他人の迷惑になる行為は慎むこと。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>書名/九成宮醜泉銘(中国法書選No. 31) 著訳編註名/欧陽詢 出版社/二玄社 ISBN/4544005310</p> <p>書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336</p> <p>必要に応じプリントを配布する。</p>
参考書 Reference(s)	

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	8.0

授業の目的、概要 Objectives and content	近世文学の諸問題 江戸時代の浄瑠璃や歌舞伎などの演劇、浮世草子などの小説を中心に卒業論文の指導を行う。
授業計画 Syllabus	<p>《前期》</p> <p>第1回 卒業論文の意義と目的 第2回 卒業論文仮題目提出 第3回 構想発表（論文で取り上げようとする問題について）1 第4回 構想発表2 第5回 構想発表3 第6回 構想発表4 第7回 構想発表5 第8回 論文の書き方と問題点1 第9回 論文の書き方と問題点2 第10回 論文の書き方と問題点3 第11回 論文の書き方と問題点4 第12回 論文の書き方と問題点5 第13回 個別相談1 第14回 個別相談2 第15回 中間発表</p> <p>《後期》</p> <p>第1回 卒業論文の題目提出 第2回 個別指導1 第3回 個別指導2 第4回 個別指導3 第5回 卒業論文の目次提出 第6回～第13回 個別指導 第14回 卒業論文提出の注意 第15回 口頭試問について</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式
評価方法 Evaluation	卒業論文による
履修上の注意 Requirements and policy	論文の中間発表など、指定された発表などを必ず行うこと。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布
参考書 Reference(s)	

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	池谷 知子						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	火曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>日本語教育に関係するテーマで卒業研究を書くことを目指します。「敬語について」「子供の言語習得について」のような漠然としたテーマはできるだけ早い段階で興味の焦点を絞っておくことが大切です。まず、採取した用例をどのような視点、枠組みで分析するのかなど、論文を書くため技法を身につけながら、各自の卒業論文のテーマについて発表を行います。個別の指導はそれぞれ時間をとって行います。</p> <p><日本語教育に関係するテーマ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育教材研究 ・日本語の文法や語彙についての分析 ・日本語の誤用分析 ・話し言葉の機能分析（敬語・謝罪・褒めetc） ・非言語行動について（ボディランゲージetc） ・年少者のための日本語教育 ・日本語学習者の観察やケーススタディ <p><去年の卒業研究のテーマ></p> <p>「日本人とベトナム人の地域コミュニティへ学校教育と言語形成へ」 「日本語学習者の誤用例へ作文・メールから見える誤用分析」 「日韓大学生おごり、割り勘の言語行動の実態」 「バイリンガルであることは海外に住む日本人の母親から見た子供の言語へ」 「個別コースデザインを試み〜韓国語を母語とする学習者のための最適なシラバスとは」</p>						
授業計画 Syllabus	<p><前期></p> <p>第1回 卒業研究とは 第2回 各自のテーマについての発表と質疑応答1 第3回 各自のテーマについての発表と質疑応答2 第4回 各自のテーマについての発表と質疑応答3 第5回 参考文献の検索方法 第6回 データ収集の方法 第7回 データの分析 第8回 テーマ決定 第9回 各自のテーマについて個別指導1 第10回 各自のテーマについて個別指導2 第11回 各自のテーマについて個別指導3 第12回 各自のテーマについて個別指導4 第13回 各自のテーマについて個別指導5 第14回 各自のテーマについて個別指導6 第15回 前期のまとめ</p> <p><後期></p> <p>第16回 各自のテーマについての発表と質疑応答1 第17回 各自のテーマについての発表と質疑応答2 第18回 各自のテーマについての発表と質疑応答3 第19回 各自のテーマについての発表と質疑応答4 第20回 各自のテーマについての発表と質疑応答5 第21回 各自のテーマについての発表と質疑応答6 第22回 各自のテーマについて個別指導1 第23回 各自のテーマについて個別指導2 第24回 各自のテーマについて個別指導3 第25回 各自のテーマについて個別指導4 第26回 各自のテーマについて個別指導5 第27回 各自のテーマについて個別指導6 第28回 卒業論文発表会 第29回 卒業論文発表会 第30回 論述口頭試問</p>						
参照URL Reference URL(s)							

授業方法 Class type	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心にする
評価方法 Evaluation	卒業論文70% 口頭試問30%
履修上の注意 Requirements and policy	<ul style="list-style-type: none">・出席するだけでなく、積極的な授業参加を望みます。・欠席するときは必ず事前に連絡してください。
教科書 Textbook(s)	適宜ハンドアウトを配布
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	田中 まき						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	火曜1	配当学年	4	単位数	8.0

授業の目的、概要 Objectives and content	平安文学の研究 主に和歌の研究や、平安時代初、中期の物語研究をテーマにして、卒業論文を執筆しようとする学生に対して、助言、指導をおこなう。
授業計画 Syllabus	<p>前期</p> <p>第1回 卒業研究についての概説</p> <p>第2回 予定している研究テーマについての発表</p> <p>第3回 研究テーマについての検討①</p> <p>第4回 研究テーマについての検討②</p> <p>第5回 研究テーマに関する書籍、関係論文の探索</p> <p>第6回 研究テーマに関する書籍、関係論文のまとめと評価①</p> <p>第7回 研究テーマに関する書籍、関係論文のまとめと評価②</p> <p>第8回 研究の進捗状況の報告①</p> <p>第9回 研究の進捗状況の報告②</p> <p>第10回 研究報告とそれに対する指導①</p> <p>第11回 研究報告とそれに対する指導②</p> <p>第12回 論文の書き方の指導①</p> <p>第13回 論文の書き方の指導②</p> <p>第14回 進捗状況の報告</p> <p>第15回 夏休みの課題の申告</p> <p>後期</p> <p>第1回 夏休み期間の進捗状況の報告</p> <p>第2回 研究報告とそれに対する指導</p> <p>第3回 論文の題目・目次（構成）の報告</p> <p>第4回 卒業論文の中間発表会①</p> <p>第5回 卒業論文の中間発表会②</p> <p>第6回 中間発表に対する指導</p> <p>第7回 研究の方向性の確認</p> <p>第8回 研究報告とそれに対する指導</p> <p>第9回 進捗状況の報告発表</p> <p>第10回 論文の題目・目次（構成）の確認</p> <p>第11回 研究報告とそれに対する指導</p> <p>第12回 研究のまとめ①</p> <p>第13回 研究のまとめ②</p> <p>第14回 口頭試問</p> <p>第15回 卒業論文の成果報告会</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	研究の進捗状況についての報告と討論 研究内容や進め方についてのアドバイスや指導
評価方法 Evaluation	研究成果をまとめた論文（口頭試問を含む）90% 卒業研究に対する取り組み 10%
履修上の注意 Requirements and policy	年間を通して、着実に作業し、研究して、最後に良い成果がまとめられるよう努力すること。
教科書 Textbook(s)	特になし。

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	村上 敬一						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	8.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【目的】卒業論文の作成 【概要】社会言語学・日本語学・方言学の視点から、現代日本語に関する卒業論文作成の指導を行う。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 卒業論文作成にあたっての注意 第2回 研究目的・調査内容についての検討① 第3回 研究目的・調査内容についての検討② 第4回 研究目的・調査内容についての検討③ 第5回 卒業論文についての討議① 第6回 卒業論文についての討議② 第7回 卒業論文についての討議③ 第8回 卒業論文についての討議④ 第9回 卒業論文についての討議⑤ 第10回 卒業論文についての討議⑥ 第11回 卒業論文についての討議⑦ 第12回 卒業論文についての討議⑧ 第13回 卒業論文についての討議⑨ 第14回 卒業論文についての討議⑩ 第15回 卒業論文についての討議⑪</p> <p>※ 夏休み中に、各自のテーマに従った言語調査を引き続き行う。</p> <p>第16回 卒業論文についての討議① 第17回 卒業論文についての討議② 第18回 卒業論文についての討議③ 第19回 卒業論文についての討議④ 第20回 卒業論文についての討議⑤ 第21回 卒業論文についての討議⑥ 第22回 卒業論文についての討議⑦ 第23回 卒業論文についての討議⑧ 第24回 卒業論文についての討議⑨ 第25回 卒業論文についての討議⑩ 第26回 卒業論文についての討議⑪ 第27回 卒業論文の仕上げ① 第28回 卒業論文の仕上げ② 第29回 卒業論文の仕上げ③ 第30回 卒業論文の仕上げ④</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価40%と卒業論文60%
履修上の注意 Requirements and policy	就職活動などで忙しい時期もあるが、しっかりした論文を書くためにも定期的に指導を受けること。
教科書 Textbook(s)	授業中に紹介する。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	吉井 健						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	8.0

授業の目的、概要 Objectives and content	受講生各自の日本語文法・語彙に関する研究テーマについて、論文としてまとめられるように研究指導をおこなう。長く問題を保持して、さまざまな角度から考えることを課す。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1) 卒業論文のテーマ発表 2) 論文ではいけないこと 3) 卒業論文概要と過去の卒業生の論文紹介 4) 日本語の研究分野 5) 研究計画の提出と検討 6) 個人発表 (内容未定) 7) 個人発表 (内容未定) 8) 個人発表 (内容未定) 9) 個人発表 (内容未定) 10) 個人発表 (内容未定) 11) 個人発表 (内容未定) 12) 個人発表 (内容未定) 13) 個人発表 (内容未定) 14) 個人発表 (内容未定) 15) 夏期休暇中の作業計画の提出と検討 16) 夏期休暇中の作業進捗状況報告 17) 個人発表 (内容未定) 18) 個人発表 (内容未定) 19) 個人発表 (内容未定) 20) 個人発表 (内容未定) 21) 論文概要再確認(引用のモラルなど) 22) 論文目次提出と検討 23) 個人発表 (内容未定) 24) 個人発表 (内容未定) 25) 個人発表 (内容未定) 26) 個人発表 (内容未定) 27) 論文提出要領の確認・口頭試問日程決定 28) 提出直前相談 (形式面の相談を中心とする) 29) 論文を書き終えて 30) 総評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	研究の報告と指導
評価方法 Evaluation	論文審査(口頭試問を含む)100%
履修上の注意 Requirements and policy	一年間一つのテーマを思うぞんぶん追究するという稀有で贅沢な体験である。自分独自の作品ができるよう、自分自身でよく考え努力すること。
教科書 Textbook(s)	なし。プリント配付。

参考書 Reference(s)	菊池聡『超常現象をなぜ信じるのか』（講談社ブルーバックス）
備考 Remarks	参考書は、必ずしも購入の必要はない。

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日中対照言語学A						
担当教員	藤井 千枝						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	同時代の言語を比較対照する「対照言語学」は、外国語教育と密接につながる分野である。日本語教育現場、あるいは日本人の中国語学習の上で問題になる差異について、紹介する。後半では、学習者の実際の誤用をグループに分かれて分析・発表する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対照研究と日本語教育① 2. 対照研究と日本語教育② 3. 対照研究と日本語教育③ 4. 音声の話 5. 語彙の話 6. 文法の話 7. 論文「類型論からみた中国語と日本語と英語」① 8. 論文「類型論からみた中国語と日本語と英語」② 9. 論文「類型論からみた中国語と日本語と英語」③ 10. 誤用分析 11. グループワーク① 12. グループワーク② 13. グループ発表① 14. グループ発表② 15. 対照研究と日本語教育（まとめ）
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式（グループワークも取り入れる）
評価方法 Evaluation	授業参加度30% 発表30% レポート40%
履修上の注意 Requirements and policy	毎時間出席を確認する（10回以上の出席を求める／事前連絡があれば就職活動による欠席については配慮する） 中国語学習経験がなくても受講できるが、授業をきっかけに中国語への興味を持ってほしい
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	「対照研究と日本語教育」国立国語研究所（くろしお出版） 「日中対照言語学研究論文集」大河内康憲（くろしお出版） 「中国語からみた日本語の特徴、日本語からみた中国語の特徴」彭飛（和泉書院）
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日中対照言語学B						
担当教員	藤井 千枝						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p><日中対照言語学Aを参照> 後期の授業の前半では、論文を通して、日本語と中国語の違いについて考察し、後半では再び実際の学習者の誤用例を資料に、誤用分析を行い、各自気づいた点についてまとめて発表する。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日中同形語・ほか（文法入門書より）① 2. 日中同形語・ほか（文法入門書より）② 3. 論文「日本語と中国語の同形語」① 4. 論文「日本語と中国語の同形語」② 5. 論文「日本語名詞のトコロ（空間）性－中国語との関連で－」① 6. 論文「日本語名詞のトコロ（空間）性－中国語との関連で－」② 7. 論文（受講生の関心による） 8. 論文（受講生の関心による） 9. 論文（受講生の関心による） 10. 誤用分析① 11. 誤用分析② 12. 誤用分析③ 13. 発表① 14. 発表② 15. 発表③
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式（グループワークも行う）
評価方法 Evaluation	授業参加度30% 発表30% レポート40%
履修上の注意 Requirements and policy	毎時間出席を確認する（10回以上の出席を求める／事前連絡があれば就職活動による欠席については配慮する） 中国語学習経験がなくても受講できるが、授業をきっかけに中国語への興味を持ってほしい
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	<p>「はじめての人の中国語」中川正之（くろしお出版） 「日中対照言語学研究論文集」大河内康憲（くろしお出版） 「中国語からみた日本語の特徴、日本語からみた中国語の特徴」彭飛（和泉書院）</p>
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日朝対照言語学A						
担当教員	金 美善						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	朝鮮語は日本語と統語構造が似ている類似点の多い言語とされますが、音韻構造や表現、言語行動の面では相違点の多い言語でもあります。この授業では、朝鮮語の構造を通して日本語を客観的に観察する力を養っていきます。前期では、発音構造、文法を中心に朝鮮語と日本語の類似点と相違点を対照分析します。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：朝鮮語ってどんな言語？ 2. 朝鮮語の母音、日本語の母音 3. 朝鮮語の子音、日本語の子音 4. 朝鮮語の音節構造、日本語の音節構造 5. 朝鮮語のパソコン入力 6. 朝鮮語の名詞文、日本語の名詞文 1 7. 朝鮮語の名詞文、日本語の名詞文 2 8. 朝鮮語の用言文、日本語の用言文 1 9. 朝鮮語の用言文、日本語の用言文 2 10. いろいろな言語の数え方 11. 朝鮮語の敬語体系、日本語の敬語体系 12. 調べてみよう、日本語と他言語の類似点・相違点 1 13. 調べてみよう、日本語と他言語の類似点・相違点 2 14. 予備日 15. 期末試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	出席、平常点、期末試験
履修上の注意 Requirements and policy	出席点を大事にします
教科書 Textbook(s)	プリントを用意します
参考書 Reference(s)	韓日辞書
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日朝対照言語学B						
担当教員	金 美善						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	朝鮮語は日本語と統語構造が似ている類似点の多い言語とされますが、音韻構造や表現、言語行動の面では相違点の多い言語でもあります。この授業では、朝鮮語の構造を通して日本語を客観的に観察する力を養っていきます。後期では、朝鮮語と日本語のさまざまな言語場면을素材に言語の社会的背景を対照分析します。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：朝鮮語の社会・文化的背景 2. 朝鮮語の親族名称、日本語の親族名称 3. 朝鮮語と日本語のインターネット上の言語表現 4. 朝鮮語の携帯メール文、日本語の携帯メール文 5. 朝鮮語のパソコン入力 6. 朝鮮語と日本語の喜怒哀楽の言語表現 1 7. 朝鮮語と日本語の喜怒哀楽の言語表現 2 8. K-POPの朝鮮語と日本語訳 1 9. K-POPの朝鮮語と日本語訳 2 10. 朝鮮語と日本語の親疎関係の言語表現 1 11. 朝鮮語と日本語の親疎関係の言語表現 2 12. 調べてみよう、日本語と朝鮮語の類似点・相違点 1 13. 調べてみよう、日本語と朝鮮語の類似点・相違点 2 14. 予備日 15. 期末試験
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	出席、平常点、期末試験
履修上の注意 Requirements and policy	出席点を大事にします
教科書 Textbook(s)	プリントを用意します
参考書 Reference(s)	韓日辞書
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日本語教育演習A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>この授業は、日本語を教えることを「実際に体験してみる」ことが目的です。そのためには、どのような文法項目がどのような順番で並び、また、それをどのように教えることができるのかを知らなければなりません。このクラスではまず、日本語のテキストを分析し、実際に何を教えるのかという「文法項目」を勉強します。そしてそれを生かして、「教案」の書き方を学び、最後に、実際に「模擬授業」を行ってもらいます。模擬授業の様子はビデオ取りし、その後フィードバックを行います。7月には学内で留学生のクラスに参加し、模擬授業だけでは経験できない体験をします。授業外では希望者はアジアの大学からの短期日本語研修生の日本語パートナーとして登録し、日本語指導だけではなく、異文化間コミュニケーションも体験することができます。</p> <p>授業の一環として海外技術者研修センター(AOTS)など学外の日本語教育機関における留学生対象の授業に参加することがあります。このような性格の授業ため、授業を休まず、積極的に授業に参加することを希望します。シラバスは参加者の人数や受け入れ先の都合により、変更される可能性があります。</p>						
授業計画 Syllabus	第1回 実習指導1・教授法 第2回 実習指導2・教材研究 第3回 実習指導3・教材研究 第4回 実習指導4・教案指導 第5回 実習指導5・教案指導 第6回 文型の調べ方 第7回 文型の説明の仕方 第8回 初級のポイント 第9回 模擬授業1 第10回 模擬授業2 第11回 模擬授業3 第12回 模擬授業4 第13回 模擬授業5 第14回 模擬授業6 第15回 模擬授業のまとめ						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義形式+実習(模擬授業)						
評価方法 Evaluation	平常点50% 模擬授業25% 教案・実習レポート25%						
履修上の注意 Requirements and policy	<ul style="list-style-type: none"> ・出席するだけでなく、積極的な授業参加を望みます。 ・欠席するときは必ず事前に連絡してください。 ・4回以上欠席すると、受講資格を失います。 						
教科書 Textbook(s)	みんなの日本語 初級I本冊(スリーエーネットワーク)2,500円 ISDN4-88319-102-8						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日本語教育演習B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>この授業は、日本語を教えることを「実際に体験してみる」ことが目的です。そのためには、どのような文法項目がどのような順番で並び、また、それをどのように教えることができるのかを知らなければなりません。このクラスではまず、日本語のテキストを分析し、実際に何を教えるのかという「文法項目」を勉強します。そしてそれを生かして、「教案」の書き方を学び、最後に、実際に「模擬授業」を行ってもらいます。模擬授業の様子はビデオ取りし、その後フィードバックを行います。7月には学内で留学生のクラスに参加し、模擬授業だけでは経験できない体験をします。授業外では希望者はアジアの大学からの短期日本語研修生の日本語パートナーとして登録し、日本語指導だけではなく、異文化間コミュニケーションも体験することができます。授業の一環として海外技術者研修センター(AOTS)など学外の日本語教育機関における留学生対象の授業に参加することがあります。このような性格の授業ため、授業を休まず、積極的に授業に参加することを希望します。シラバスは参加者の人数や受け入れ先の都合により、変更される可能性があります。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 レポートの好評 第2回 上手な教え方のコツ 第3回 上手な教え方の工夫 第4回 ゲームを作ってみましょう 第5回 模擬授業1 第6回 模擬授業2 第7回 模擬授業3 第8回 模擬授業4 第9回 模擬授業5 第10回 模擬授業6 第11回 模擬授業7 第12回 模擬授業8 第13回 模擬授業9 第14回 日本語教育実習 まとめと振り返り 第15回 海外技術者研修協会関西研修センター（学外研修）</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義形式+実習（模擬授業）						
評価方法 Evaluation	平常点50% 模擬授業25% 教案・実習レポート25%						
履修上の注意 Requirements and policy	<ul style="list-style-type: none"> ・出席するだけでなく、積極的な授業参加を望みます。 ・欠席するときは必ず事前に連絡してください。 ・4回以上欠席すると、受講資格を失います。 						
教科書 Textbook(s)	みんなの日本語 初級I本冊（スリーイーネットワーク）2,500円 ISDN4-88319-102-8						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日本語教育研究A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>私たちにとって日本語は母語なので、無意識に使いこなしています。つまり、「東京へ行く」と「東京に行く」は何か違うのか、「私は田中です」と「私が田中です」は何か違うのかというルールを知らなくても、考えることなく正しく話すことができます。これは当たり前のことようですが、とても不思議なことです。この授業は日本語を勉強している外国人、つまり、日本語非母語話者に日本語を教えるためには何か必要なのかということをお勉強することを目的としています。そのためには、私たちの母語である日本語を一度、客観的にとらえ直し、日本語何が難しいのか、何が面白いのかを考えたいと思います。</p> <p>授業の一環として、アジアプログラムとの合同授業を行います。また、海外技術者研修センター(AOTS)など学外の日本語教育機関における留学生対象の授業に参加することがあります。</p> <p>(アジアプログラムの日には多少、前後する可能性があります)</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 日本語教育入門 (日本語は何から、どんなふうに教えるのか)</p> <p>第2回 日本語教育文法の基礎 (国文法との違い)</p> <p>第3回 外国語教授法1 オーディオ・リンガル パターンプラクティス紹介</p> <p>第4回 外国語教授法2 TPR (テ形の教え方も)</p> <p>第5回 外国語教授法3 コミュニカティブ・アプローチ (アクティビティ紹介)</p> <p>第6回 外国語教授法4 その他、サイレント・ウェイやサジェストペディアなど</p> <p>第7回 外国語教授法5 OPI</p> <p>第8回 初級文法1 ナイ形、辞書形、タ形</p> <p>第9回 初級文法2 テンス・アスペクト</p> <p>第10回 初級文法3 助詞</p> <p>第11回 初級文法4 指示詞・接続詞・副詞</p> <p>第12回 初級文法5 自動詞・他動詞 動詞の種類</p> <p>第13回 初級文法6 モダリティ</p> <p>第14回 アジアプログラムとの合同授業</p> <p>第15回 前期のまとめ・前期試験</p>						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type							
評価方法 Evaluation	<p>平常点 (出席、授業の参加態度、宿題、提出物等) 50%</p> <p>試験・小テスト・レポート等 50%</p>						
履修上の注意 Requirements and policy	<ul style="list-style-type: none"> ・出席するだけでなく、積極的な授業参加を望みます。 ・就職活動等で欠席するときは必ず事前に連絡してください。 ・4回以上欠席すると、受講資格を失います。 						
教科書 Textbook(s)	<p>「改訂信販 日本語教師養成シリーズ5 日本語教授法」監修 佐治圭三、真田信治 東京法令出版 発売元 にほんご凡人社 2,000円 ISBN4-8090-6240-6</p>						
参考書 Reference(s)	『みんなの日本語Ⅰ』 『みんなの日本語Ⅱ』 スリーエーネットワーク						
備考 Remarks							

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日本語教育研究B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>私たちにとって日本語は母語なので、無意識に使いこなしています。つまり、「東京へ行く」と「東京に行く」は何か違うのか、「私は田中です」と「私が田中です」は何か違うのかというルールを知らなくても、考えることなく正しく話すことができます。これは当たり前のことようですが、とても不思議なことです。この授業は日本語を勉強している外国人、つまり、日本語非母語話者に日本語を教えるためには何か必要なのかということをお勉強することを目的としています。そのためには、私たちの母語である日本語を一度、客観的にとらえ直し、日本語何が難しいのか、何が面白いのかを考えたいと思います。</p> <p>授業の一環として、アジアプログラムとの合同授業を行います。また、海外技術者研修センター(AOTS)など学外の日本語教育機関における留学生対象の授業に参加することがあります。</p> <p>(アジアプログラムの日にちは多少、前後する可能性があります)</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 さまざまな学習者とその目的</p> <p>第2回 教科書研究 1 (いろいろな教科書を紹介)</p> <p>第3回 教科書研究 2 (実際に調べてみる)</p> <p>第4回 教科書と教材・教具について (まとめ)</p> <p>第5回 「聞く」「話す」教材の紹介</p> <p>第6回 「聞く」「話す」指導法とレベル</p> <p>第7回 「聞く」「話す」教材の作成</p> <p>第8回 「読む」「書く」教材の紹介</p> <p>第9回 「読む」「書く」指導法とレベル</p> <p>第10回 「読む」「書く」教材の作成</p> <p>第11回 初級の指導法 まとめ</p> <p>第12回 中級の指導について</p> <p>第13回 上級の指導について</p> <p>第14回 中級・上級の指導法</p> <p>第15回 後期のまとめ、後期試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	
評価方法 Evaluation	<p>平常点(出席、授業の参加態度、宿題、提出物等) 50%</p> <p>試験・小テスト・レポート等 50%</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<ul style="list-style-type: none"> ・出席するだけでなく、積極的な授業参加を望みます。 ・就職活動等で欠席するときは必ず事前に連絡してください。 ・4回以上欠席すると、受講資格を失います。
教科書 Textbook(s)	<p>「改訂信販 日本語教師養成シリーズ5 日本語教授法」監修 佐治圭三、真田信治 東京法令出版 発売元 にほんご凡人社 2,000円 ISBN4-8090-6240-6</p>
参考書 Reference(s)	『みんなの日本語Ⅰ』『みんなの日本語Ⅱ』スリーエーネットワーク
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日本語教育研究C						
担当教員	山極 美奈子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	日本語教育（日本語を外国語として非日本語母語話者に教える）とはどういうことなのか、日本語学習者のニーズや背景を踏まえながら考えていきます。予定している授業内容は「文法」を中心とし、実際に使用されている日本語の教科書の文法項目を分析しながら進めていきます。						
授業計画 Syllabus	第1回：オリエンテーション 第2回：日本語の文法①（名詞） 第3回：日本語の文法②（動詞） 第4回：日本語の文法③（形容詞） 第5回：日本語の文法④（助詞） 第6回：日本語の文法⑤（テンス・アスペクト） 第7回：日本語の文法⑥（モダリティ・取り立て） 第8回：「みんなの日本語」文法項目①（L1～L19） 第9回：「みんなの日本語」文法項目②（L20～L25） 第10回：「みんなの日本語」文法項目③（L26～L38） 第11回：「みんなの日本語」文法項目④（L39～L50） 第12回：前期のまとめ 第13回：アジアプログラム合同授業（変更の可能性あり） 第14回：前期試験と質疑応答（試験またはレポートの詳細は授業内にて発表） 第15回：前期試験 解答解説						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	基本的には講義形式ですが、ミニ発表やグループワークなどの可能性があります。これらの活動も評価対象になります。						
評価方法 Evaluation	出席（70%以上で評価対象）、課題、試験などの総合評価とする。評価配分は試験（課題含む）結果50%、授業中の平常点（参加度・発言・態度など）50%とする。						
履修上の注意 Requirements and policy	自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しいと思います。なお授業の一環として学外見学・研修の可能性がります。						
教科書 Textbook(s)	「日本語教師トレーニングマニュアル2 日本語文法整理読本 解説と演習」 監修：名柄迪 著者：井口厚夫・井口裕子 バベルプレス ISBN978-4-931049-72-7						
参考書 Reference(s)	「日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド」著者：ヒューマンアカデミー ISBN978-4-7981-1788-1						
備考 Remarks							

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日本語教育研究D						
担当教員	山極 美奈子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	日本語教育（日本語を外国語として非日本語母語話者に教える）とはどういうことなのか、日本語学習者のニーズや背景を踏まえながら考えていきます。予定している授業内容は「音声」を中心とし、そのほかに「語彙」や「表記」などについても考えながら進めていきます。
授業計画 Syllabus	第1回：オリエンテーション 第2回：日本語の音声①（音の作り方） 第3回：日本語の音声②（調音） 第4回：日本語の音声③（音の単位） 第5回：日本語の音声④（母音と子音） 第6回：日本語の音声⑤（アクセント・イントネーション） 第7回：日本語の音声⑥（プロミネンス） 第8回：日本語の表記①（漢字の歴史） 第9回：日本語の表記②（仮名遣い） 第10回：日本語の語彙①（語彙の分類） 第11回：日本語の語彙②（語構成） 第12回：日本語の語彙③（位相） 第13回：後期のまとめ 第14回：前期試験と質疑応答（試験またはレポートの詳細は授業内にて発表） 第15回：前期試験 解答解説
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	基本的には講義形式ですが、ミニ発表やグループワークなどの可能性があります。これらの活動も評価対象になります。
評価方法 Evaluation	出席（70%以上で評価対象）、課題、試験などの総合評価とする。評価配分は試験（課題含む）結果50%、授業中の平常点（参加度・発言・態度など）50%とする。
履修上の注意 Requirements and policy	自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しいと思います。なお授業の一環として学外見学・研修の可能性があります。
教科書 Textbook (s)	「国際交流基金 日本語教授法シリーズ2 音声を教える」 著者：国際交流基金 ひつじ書房 ISBN978-4-89476-302-9
参考書 Reference (s)	「日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド」著者：ヒューマンアカデミー ISBN978-4-7981-1788-1
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日本語教育入門						
担当教員	村上 敬一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【授業の目的】 外国語としての日本語教育と異文化間コミュニケーション、多文化共生についての理解を深める</p> <p>【概要】 外国語としての日本語教育を実践的に学び、日本語を外国語として学ぶ人々への理解を深めるなかで、日本語教育の基礎的な知識を学ぶ。日本語教育を通じて、自身の身近な問題から、グローバル化した社会問題まで、多角的な視野と思考力を身に付けるためのトレーニングを行なう。講義だけでなく、異文化間コミュニケーション、多文化共生の実践として、留学生との合同授業を行なうなど、実体験を通じた学習形態も取り入れる。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 日本語を学ぶ人 第3回 日本語を教える人 第4回 日本語教育における異文化コミュニケーション(1) 第5回 神戸大留学生との合同授業 第6回 日本語教育における異文化コミュニケーション(2) 第7回 日本語教育における異文化コミュニケーション(3) 第8回 日本語教育のコースデザイン 第9回 日本語教育教授法(1) 第10回 日本語教育教授法(2) 第11回 第二言語習得と日本語教育(1) 第12回 第二言語習得と日本語教育(2) 第13回 日本語教育の歴史(1) 第14回 日本語教育の歴史(2) 第15回 まとめと今後に向けて</p> <p>※ アジアプログラム留学生との合同授業に振り替える場合がある。 そのときは、改訂したものを通知する。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義、留学生との体験的授業
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%とレポート、試験40%
履修上の注意 Requirements and policy	出席することはもちろん、授業中の諸活動に進んで参加すること。
教科書 Textbook(s)	プリントを配付する
参考書 Reference(s)	<p>遠藤織枝(編)『日本語教育を学ぶ』三修社 山下暁美(編著)『日本語教育文法講義ノート』アルク 庵功雄ほか『やさしい日本語のしくみ』くろしお出版 堀井恵子『日本語教育への扉』凡人社</p>
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日本語教育入門						
担当教員	村上 敬一						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【授業の目的】 外国語としての日本語教育と異文化間コミュニケーション、多文化共生についての理解を深める</p> <p>【概要】 外国語としての日本語教育を実践的に学び、日本語を外国語として学ぶ人々への理解を深めるなかで、日本語教育の基礎的な知識を学ぶ。日本語教育を通じて、自身の身近な問題から、グローバル化した社会問題まで、多角的な視野と思考力を身に付けるためのトレーニングを行なう。講義だけでなく、異文化間コミュニケーション、多文化共生の実践として、留学生との合同授業を行なうなど、実体験を通じた学習形態も取り入れる。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 日本語を学ぶ人 第3回 日本語を教える人 第4回 日本語教育における異文化コミュニケーション（1） 第5回 神戸大留学生との合同授業 第6回 日本語教育における異文化コミュニケーション（2） 第7回 日本語教育における異文化コミュニケーション（3） 第8回 日本語教育のコースデザイン 第9回 日本語教育教授法（1） 第10回 日本語教育教授法（2） 第11回 第二言語習得と日本語教育（1） 第12回 第二言語習得と日本語教育（2） 第13回 日本語教育の歴史（1） 第14回 日本語教育の歴史（2） 第15回 まとめと今後に向けて</p> <p>※ アジアプログラム留学生との合同授業に振り替える場合がある。 そのときは、改訂したものを通知する。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義、留学生との体験的授業
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%とレポート、試験40%
履修上の注意 Requirements and policy	出席することはもちろん、授業中の諸活動に進んで参加すること。
教科書 Textbook(s)	プリントを配付する
参考書 Reference(s)	<p>遠藤織枝（編）『日本語教育を学ぶ』三修社 山下暁美（編著）『日本語教育文法講義ノート』アルク 庵功雄ほか『やさしい日本語のしくみ』くろしお出版 堀井恵子『日本語教育への扉』凡人社</p>
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶA／日本文化特殊講義A						
担当教員	田中 まき						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>美術工芸における平安文学の享受の研究</p> <p>平安時代の物語は絵を伴って読まれていたことが様々な文献から確認できるが、残念ながら、そのまま現存する物は少ない。しかし、わずかに残る国宝『源氏物語絵巻』や『寝覚物語絵巻』などの平安後期に製作された絵巻によって、王朝文化の華やかさや技術の高さを窺うことができる。また、美しい料紙に流麗な文字で書かれた『西本願寺本三十六人集』や『元永本古今和歌集』などの豪華な装飾本歌集も現存し、これらによって、平安時代の文化の高さをしのぶことができる。</p> <p>さらに、平安時代の物語や歌集は、その時代だけでなく、以後、連綿と読み継がれ、後世に多大な影響を与えてきた。それは文学の面だけではなく、文化全般に享受され、美術・工芸作品としても様々な多くの作品を生み出した。</p> <p>本授業では、このような平安文学の影響のもとに製作された美術・工芸品について、もとの平安文学を鑑賞しながら、それがどのように享受されてきたか、その様相を講義する。</p> <p>美術・工芸品について、理解しやすいように、パソコンの画像やDVDの画像をプロジェクターで示しながら解説する。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 平安文学とその影響を受けた美術・工芸品についての概説</p> <p>第2回 屏風歌と屏風絵</p> <p>第3回 『古今和歌集』の写本（高野切・元永本・伝公任筆本・唐紙卷子本など）</p> <p>第4回 『西本願寺本三十六人集』</p> <p>第5回 歌仙絵と『佐竹本三十六人集』</p> <p>第6回 古筆切と手鑑</p> <p>第7回 冷泉家の至宝</p> <p>第8回 国宝『源氏物語絵巻』</p> <p>第9回 『伊勢物語絵巻』（白描梵字経下絵・久保惣本など）</p> <p>第10回 本阿弥光悦と嵯峨本（古活字本）の刊行</p> <p>第11回 絵入り版本の盛行</p> <p>第12回 俵屋宗達と『伊勢物語図色紙』</p> <p>第13回 尾形光琳の『伊勢物語』享受（国宝『燕子花図屏風』など）</p> <p>第14回 古典文学をモチーフとした調度や衣装</p> <p>第15回 まとめと試験</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	試験（90%）と平常点（10%）						
履修上の注意 Requirements and policy	毎回、プリントを配布するので、遅刻、欠席をしないこと。 3分の2以上の出席がなければ、試験を受ける資格はないものとする。						
教科書 Textbook(s)	『カラー版 王朝文学選』岡野通夫・小山利彦監・奈古忠國編（おうふう） 978-4-273-02212-9 プリントを併用する。						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶB／日本文化特殊講義B						
担当教員	田中 まき						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>平安時代の貴族文化の研究 平安貴族の暮らしとその一生を概観する。 古典文学や記録を読み解きながら、 そこに現れている貴族たちの日常生活や通過儀礼、行事などについて講義する。 平安貴族の華やかで雅(みやび)な文化について考察するとともに、 現代から見れば、考えられないような窮屈で不自由な、平安貴族の暮らしぶりを明らかにしたい。 この講義では、当時の貴族生活や儀礼・行事について、理解しやすいよう、 パソコンの画像やDVDの画像をプロジェクターで示しながら解説する。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 平安時代の貴族と庶民の暮らし 第2回 貴族の住まい 第3回 貴族の装束(男性装束) 第4回 貴族の装束(女性装束) 第5回 貴族の装束(化粧・髪など) 第6回 貴族の暮らし(調度・寝具など) 第7回 貴族の食事 第8回 貴族の一生①(誕生・元服・裳着など) 第9回 貴族の一生②(恋愛と結婚) 第10回 貴族の一生③(臨終・葬送・服喪) 第11回 貴族の宮仕え 第12回 貴族の信仰と生活慣習(物忌み、方違えなど) 第13回 貴族の教養(漢学と和歌) 第14回 貴族の遊び(音楽・物合など) 第15回 まとめと試験</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	試験(90%)と平常点(10%)						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>毎回、プリントを配布するので、遅刻、欠席をしないこと。 3分の2以上の出席がなければ、試験を受ける資格はないものとする。</p>						
教科書 Textbook(s)	プリントを使用する。						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶC／日本文化特殊講義C						
担当教員	青木 千代子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	わび・さびが日本文化の特徴だと言われて久しい。しかし現代の若い人たちには内容もその歴史もわかりにくくなっているようだ。「日本らしい」文化はいつごろから形を成してきたのだろうか。鎌倉時代から南北朝時代を生きた兼好法師の『徒然草』を読みながら考えてみたい。また、前の時代の『枕草子』後の時代の芭蕉の作品などとも比較してみたい。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1 『徒然草』について 2 『徒然草』の時代について 3 19段を読む。時の移り変わりに美を感じる。 4 19段の続き 5 25段から30段を読む。無常の世をを詠嘆する 6 続き 7 137段を読む。満開の桜や満月よりその前後や見えない場合のほうがしみじみと感動するということ 8 137段続き 9 137段続き。82段を読む。前後の時代はどうだったか。 10 勅撰和歌集の自然の美 11 191段を読む。夜の光のもとでの美しさ。『陰翳礼賛』 12 151段を読む。仏教思想と欲望を抑えた生き方。 13 167段168段を読む。「道」について。 14 補遺 15 まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式
評価方法 Evaluation	期末レポート5割と小レポート5割
履修上の注意 Requirements and policy	いろいろな日本文化に言及します。興味を広く持って授業に臨んで下さい。
教科書 Textbook(s)	角川ソフィア文庫『徒然草』今泉忠義訳注 978-4-04-400801-7-c0195
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	話しことばの諸相／国語学講読F						
担当教員	武田 佳子・牧野 由紀子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	話しことばの持つ側面をさまざまな視点からとりあげ、話しことばについて考えます。						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 話しことばとは ー話しことばの特徴ー</p> <p>第2回 話しことばの多様性 ー話しことばと方言ー</p> <p>第3回 話しことばの歴史(1) ー歴史資料に見る話しことばー</p> <p>第4回 話しことばの歴史(2) ー標準語の成立ー</p> <p>第5回 話しことばの習得 ー国語教育と自然習得ー</p> <p>第6回 音声 ー母音・子音、共通日本語の音声と方言の音声ー</p> <p>第7回 音声と音韻 ー音声とその認識ー</p> <p>第8回 アクセント(1) ーアクセントのとらえ方ー</p> <p>第9回 アクセント(2) ーアクセントの変遷ー</p> <p>第10回 イントネーション ーイントネーションの構成要素ー</p> <p>第11回 「会話をする」ということ(1)</p> <p>第12回 「会話をする」ということ(2)</p> <p>第13回 「会話をする」ということ(3)</p> <p>第14回 「人に配慮する」ということ(1)</p> <p>第15回 「人に配慮する」ということ(2)</p> <p>(担当：第1回～第10回 武田、第11回～第15回 牧野)</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義形式を基本としますが、発言を求めることもあります。						
評価方法 Evaluation	授業への参加度などの平常点(20%)、レポートおよび試験(80%)						
履修上の注意 Requirements and policy	80%以上の出席で評価の対象とします。 授業中の私語は他の出席者に迷惑がかかりますので厳に慎んでください。 私語の状況によっては退席してもらいます。						
教科書 Textbook(s)	プリント配布						
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。						
備考 Remarks							

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	文章表現法A／青木 稔弥						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>本講では、日本語の文章表現（漢字・表記・語彙・ことばの意味など）についての知識と、その運用能力を高めるための基礎を学ぶ。具体的な内容・目標は、以下に示すとおりである。</p> <p>1. 日本語の文の構造、文体についての基本的な知識を身につける。</p> <p>2. 日本語の表記、常用漢字、仮名づかい、外来語の表記、同音異義語、異字同訓などについての基本的な知識を身につける。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 文章表現法とは（イントロダクション）</p> <p>第2回 類義語・対義語</p> <p>第3回 動詞の自他・視点</p> <p>第4回 文体、話しことば・書きことば</p> <p>第5回 語と語の慣用的な結びつき</p> <p>第6回 部首・音訓・熟語</p> <p>第7回 仮名遣い・送りがな</p> <p>第8回 品詞・活用の種類</p> <p>第9回 ら抜きことば、レタスことば、さ入れことば</p> <p>第10回 文のねじれ、ことばの係り受け、あいまい文</p> <p>第11回 敬語の種類と使い分け</p> <p>第12回 注意すべき敬語</p> <p>第13回 配慮を示すことば</p> <p>第14回 まとめと筆記試験</p> <p>第15回 試験解答と解説</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義、及び実践形式
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取組状況等の評価70%と筆記試験30%
履修上の注意 Requirements and policy	具体的資料を用意し、自分の頭で考え、確認すること。積極的な授業参加が必要です。
教科書 Textbook(s)	名古屋大学日本語研究会GK7 『スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳』 東京書籍 978-4-487-80364-4
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	文章表現法A／片岡 利博						
担当教員	片岡 利博						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>本講では、日本語の文章表現（漢字・表記・語彙・ことばの意味など）についての知識と、その運用能力を高めるための基礎を学ぶ。具体的な内容・目標は、以下に示すとおりである。</p> <p>1. 日本語の文の構造、文体についての基本的な知識を身につける。</p> <p>2. 日本語の表記、常用漢字、仮名づかい、外来語の表記、同音異義語、異字同訓などについての基本的な知識を身につける。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 文章表現法とは（イントロダクション）</p> <p>第2回 類義語・対義語</p> <p>第3回 動詞の自他・視点</p> <p>第4回 文体、話しことば・書きことば</p> <p>第5回 語と語の慣用的な結びつき</p> <p>第6回 部首・音訓・熟語</p> <p>第7回 仮名遣い・送りがな</p> <p>第8回 品詞・活用の種類</p> <p>第9回 ら抜きことば、レタスことば、さ入れことば</p> <p>第10回 文のねじれ、ことばの係り受け、あいまい文</p> <p>第11回 敬語の種類と使い分け</p> <p>第12回 注意すべき敬語</p> <p>第13回 配慮を示すことば</p> <p>第14回 まとめと筆記試験</p> <p>第15回 試験解答と解説</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義、及び実践形式
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取組状況等の評価70%と筆記試験30%
履修上の注意 Requirements and policy	具体的資料を用意し、自分の頭で考え、確認すること。積極的な授業参加が必要です。
教科書 Textbook(s)	名古屋大学日本語研究会GK7 『スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳』東京書籍 978-4-487-80364-4
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	文章表現法A/金岡 直子						
担当教員	金岡 直子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>本講では、日本語の文章表現（漢字・表記・語彙・ことばの意味など）についての知識と、その運用能力を高めるための基礎を学ぶ。具体的な内容・目標は、以下に示すとおりである。</p> <p>1. 日本語の文の構造、文体についての基本的な知識を身につける。</p> <p>2. 日本語の表記、常用漢字、仮名づかい、外来語の表記、同音異義語、異字同訓などについての基本的な知識を身につける。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 文章表現法とは（イントロダクション）</p> <p>第2回 類義語・対義語</p> <p>第3回 動詞の自他・視点</p> <p>第4回 文体、話しことば・書きことば</p> <p>第5回 語と語の慣用的な結びつき</p> <p>第6回 部首・音訓・熟語</p> <p>第7回 仮名遣い・送りがな</p> <p>第8回 品詞・活用の種類</p> <p>第9回 ら抜きことば、レタスことば、さ入れことば</p> <p>第10回 文のねじれ、ことばの係り受け、あいまい文</p> <p>第11回 敬語の種類と使い分け</p> <p>第12回 注意すべき敬語</p> <p>第13回 配慮を示すことば</p> <p>第14回 まとめと筆記試験</p> <p>第15回 試験解答と解説</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義、及び実践形式
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取組状況等の評価70%と筆記試験30%
履修上の注意 Requirements and policy	具体的資料を用意し、自分の頭で考え、確認すること。積極的な授業参加が必要です。
教科書 Textbook(s)	名古屋大学日本語研究会GK7 『スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳』東京書籍 978-4-487-80364-4
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	文章表現法B／青木 稔弥						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	日本語の文章表現（表記・書きことば）についての知識を高めるとともに、その運用能力向上を目的とする。具体的には以下に示すとおりである。 1. 論理的で明確な正しい文章表現力を養う。 2. 現実に目的を持った文章の内容を、確実に読み取る力を養う。 3. 事実を客観的に把握し表現する。 4. 文章を構成する文や段落の、文章内部での役割を確実に把握する力を養う。 5. 自分の知識や経験を生かして思考する力を養う。 6. 自分の意見を効果的に記述する能力を養う。 7. 手紙やビジネス文書などを、その目的に応じて的確に記述する力を養う。
授業計画 Syllabus	第1回 ガイダンス 第2回 報告書・レポートの文章 第3回 文学的文章 第4回 段落の役割 第5回 適切な語句 第6回 悪文とは 第7回 悪文を正す 第8回 実践練習の準備 第9回 小論文を書く 第10回 論説文を書く 第11回 報告書を書く 第12回 書簡文を書く 第13回 一応のまとめと筆記試験 第14回 筆記試験に関する質疑応答 第15回 総まとめ
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義、及び実践形式
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取組状況等の評価70%と筆記試験30%
履修上の注意 Requirements and policy	具体的資料に基づき、自分の頭で考え、実践すること。積極的な授業参加が必要です。
教科書 Textbook(s)	授業中に紹介する
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	文章表現法B／片岡 利博						
担当教員	片岡 利博						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	日本語の文章表現（表記・書きことば）についての知識を高めるとともに、その運用能力向上を目的とする。具体的には以下に示すとおりである。 1. 論理的で明確な正しい文章表現力を養う。 2. 現実に目的を持った文章の内容を、確実に読み取る力を養う。 3. 事実を客観的に把握し表現する。 4. 文章を構成する文や段落の、文章内部での役割を確実に把握する力を養う。 5. 自分の知識や経験を生かして思考する力を養う。 6. 自分の意見を効果的に記述する能力を養う。 7. 手紙やビジネス文書などを、その目的に応じて的確に記述する力を養う。
授業計画 Syllabus	第1回 ガイダンス 第2回 報告書・レポートの文章 第3回 文学的文章 第4回 段落の役割 第5回 適切な語句 第6回 悪文とは 第7回 悪文を正す 第8回 実践練習の準備 第9回 小論文を書く 第10回 論説文を書く 第11回 報告書を書く 第12回 書簡文を書く 第13回 一応のまとめと筆記試験 第14回 筆記試験に関する質疑応答 第15回 総まとめ
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義、及び実践形式
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取組状況等の評価70%と筆記試験30%
履修上の注意 Requirements and policy	具体的資料に基づき、自分の頭で考え、実践すること。積極的な授業参加が必要です。
教科書 Textbook(s)	授業中に紹介する
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	文章表現法B／金岡 直子						
担当教員	金岡 直子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	日本語の文章表現（表記・書きことば）についての知識を高めるとともに、その運用能力向上を目的とする。具体的には以下に示すとおりである。 1. 論理的で明確な正しい文章表現力を養う。 2. 現実に目的を持った文章の内容を、確実に読み取る力を養う。 3. 事実を客観的に把握し表現する。 4. 文章を構成する文や段落の、文章内部での役割を確実に把握する力を養う。 5. 自分の知識や経験を生かして思考する力を養う。 6. 自分の意見を効果的に記述する力を養う。 7. 手紙やビジネス文書などを、その目的に応じて的確に記述する力を養う。
授業計画 Syllabus	第1回 ガイダンス 第2回 報告書・レポートの文章 第3回 文学的文章 第4回 段落の役割 第5回 適切な語句 第6回 悪文とは 第7回 悪文を正す 第8回 実践練習の準備 第9回 小論文を書く 第10回 論説文を書く 第11回 報告書を書く 第12回 書簡文を書く 第13回 一応のまとめと筆記試験 第14回 筆記試験に関する質疑応答 第15回 総まとめ
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義、及び実践形式
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取組状況等の評価70%と筆記試験30%
履修上の注意 Requirements and policy	具体的資料に基づき、自分の頭で考え、実践すること。積極的な授業参加が必要です。
教科書 Textbook(s)	授業中に紹介する
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	